IWATSU

Frespec
フレスペック

取扱説明書

－ ボイスメール/メッセージ/IVR編 －

第3版

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書をよくお読みになったあとは、いつでも見られる場所に保管してください。
本書を紛失または損傷したときは、お買い求めの販売店でお買い求めください。

本書中のマーク説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。

⚠警告	長年にわたってご使用いただく場合、経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがありますので、定期的な点検をおすすめいたします。

●標準使用期間として10年が目安になります。
●標準使用期間は、弊社が自主的に設定した条件にて算出した、製造した年から安全上支障なく使用できる標準的な期間です。
標準使用期間は、設計上の目安であり、設置状況・環境、使用頻度によっては、より短い期間で経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがありますので、定期的な点検をおすすめします。
●標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また、一般的な故障を保証するものではありません。
●機器の製造年月の表示は、例えば2017年12月製造の場合、以下に示す例1～例6があります。
【例1】製造年月　2017.12　　【例2】LOT　2017.12
【例3】　2017.12　　【例4】LOT　17.12
【例5】　17.12　　【例6】LOT　17.L（Lの読替えは下表参照）

略記号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
製造月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

注意
この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

（VCCI-A）

本商品のご使用にあたって、NTTのレンタル電話機がご不要となった場合は、NTT（局番なしの116番）にご連絡いただければ、「機器使用料金」は、不要となります。

- この電話機システムは日本国内用に設計されておりますので、海外ではご利用できません。
  This telephone system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通話、録音、通話料金管理、FAX通信、データ通信、その他のサービスの利用ができなかったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品の主装置からローゼットまでの配線工事には、法律で定められた工事担任者資格が必要です。無資格者の工事は違法であり、また感電･火災など事故のもととなりますので、絶対におやめください。上記について、主装置の設置、配線、移動などを行う時は、事前にお買い求めの販売店へご相談ください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、お買い求めの販売店等へお申しつけください。

端末機器などの配線工事と故障についてのご注意
- 主装置から端末機器までの配線には、傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、机の脚や什器など重いものを乗せたり、加熱しないでください。配線が損傷し、火災･感電の原因となります。
- 端末機器が動作しないときの原因には、端末の故障だけでなく、配線損傷の場合があります。動作しないまま放置しないでください。そのまま放置すると、感電や火災の原因になります。すぐに端末のモジュラコード(電話機コード)を抜いて、配線の点検を含めて、お買い求めの販売店にご連絡ください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠警告

●万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用を続けますと、火災・感電・故障の原因となります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの配線をショートさせないように接続端子からはずしてください。電話機などの端末機器は、（電源スイッチのあるものは切り、電源プラグをコンセントから抜き）モジュラケーブルをはずすか、接続ケーブルを接続端子からはずしてください。その上で煙が出なくなるのを確認して、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

●万一、主装置が倒れて破損した場合は、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。電話機などの端末機器を落として破損した場合は、（電源スイッチのあるものは切り、電源プラグをコンセントから抜き）モジュラケーブルをはずすか、配線を接続端子からはずして、お買い求めの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●主装置から異常音がしたり、主装置キャビネットが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めの販売店に点検をご依頼ください。

●主装置や電話機などをぬれた手でさわったり、水をかけないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。

●主装置や、電話機などの端末機器の通風口などの開口部から装置内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。万一、主装置や電話機などの端末機器に異物が入った場合は、装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、モジュラケーブルをはずすか、配線を接続端子からはずして、お買い求めの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

●万一、主装置内部に水などの液体が入った場合は、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

●主装置や電話機などを分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・清掃・修理はお買い求めの販売店にご依頼ください（分解、改造された主装置や電話機などは修理に応じられない場合があります）。

●主装置や電話機などのそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

●ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●雷が激しい時は、電源コード・回線コードに触れないでください。感電の原因となります。

●ハンドバッグ・ポケットなどに携帯機器や電池パックを入れる場合は、電池端子を針金や鎖などの金属類でショートさせないようにケースに入れてください。ケースに入れない場合は、火災・故障・感電・けが・やけどの原因となることがあります。

●携帯機器をねじったり、重いものをのせたり、ポケットに入れたままイスなどに強く押しつけたりして、圧迫しないでください。火災・けが・やけどの原因となります。

●AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●主装置からの電源コードおよび電話機などの配線を傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重いものを乗せたり、加熱したりすると電源コードおよび電話機までの配線が破損し、火災・感電の原因となります。電源コードおよび電話機などの配線が傷んだら、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠警告

●ぬれた手で電源プラグや電話機などのモジュラケーブルを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

●テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。

●お客様による主装置の工事・修理などは危険ですから絶対におやめください。主装置の工事・修理などを行うときは、お買い求めの販売店にご依頼ください。

●主装置の電源コードが傷んだ（芯線の露出、断線など）状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めの販売店に点検をご依頼ください。

●動いている機械の近くでヘッドセットを使用している場合は、コード類の機械への巻き込みに十分注意してください。大怪我の原因になります。

●故障したまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、差し込みプラグを抜いて、お買い求めの販売店にご連絡ください。

●付属の「ACアダプタ」「充電器」以外を使用しないでください。火災･感電･故障の原因となります。

●電源プラグの刃に金属などが触れると火災・感電の原因となります。

●主装置や電話機などはぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、主装置や電話機などの上に重いものを乗せないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

●万一、電話機などの内部に水などの液体が入った場合は、すぐに電話機などを電話機コードから抜いて、お買い求めの販売店にご連絡ください。

●主装置の電源ケーブルは添付の3 芯ケーブルをご使用ください。添付以外のものを使用すると火災･感電の原因となることがあります。

●電源プラグを本装置用の専用コンセントへ直接接続してください。延長ケーブルによるタコ足配線は加熱・発火の危険があるので絶対に行わないでください。

●必ず接地接続を行って下さい。やむを得ず2極コンセントを使用するときは、付属品の3P-2P変換アダプタを使用して、アダプタから出ている緑色のアース線を必ず電源コンセントの保護接地端子に接続して下さい。

●接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行って下さい。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行って下さい。

●ねじを用いた機器設置の際は、取扱説明書および工事説明書に記載されている指定ねじをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・事故の原因となることがあります。

●充電は、専用の充電器を使用してください。その他の充電条件で充電すると、電池パックの漏液・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。

●充電端子に水滴のついたまま充電しないでください。火災・故障の原因となります。

●生活防水（簡易防水）機器であっても水にはつけないでください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠注意

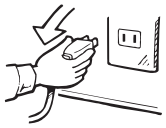
●主装置は直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

●主装置や電話機などを調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電話機などを壁掛用に取り付ける場合は、電話機などの重みにより落下しないよう堅固に取り付け、設置してください。落下してけがの原因となることがあります。

●電話機底面には、ゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。

●電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



●近くに雷が発生したときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてご使用を控えてください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。

●主装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。主装置キャビネットや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●主装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと主装置の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。

- 主装置を仰向けや横倒し、逆さまにする。
- 主装置を収納棚や本箱などの風通しの悪い狭いところに押し込む。
- 主装置をじゅうたんや布団の上に置く。
- 主装置にテーブルクロスなどをかける。

●長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず主装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●電話機パネルの取り外しには先のとがったものを利用してください。指や爪で行うとけがをするおそれがあります。

●主装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、配線など外部の接続線をはずしたことを確認のうえ行ってください。また、電話機などの端末機器を移動させる場合は、電源コードのあるものは電源プラグをコンセントから抜き、モジュラケーブルや配線などを接続端子からはずしたことを確認のうえ行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●本機から送話をするときは、受話器を上げ、発信操作後に耳を近づけてください。

●電話機などをお手入れされる場合は、安全のためモジュラケーブルを抜いてから行ってください。呼出音で衝撃を受けることがあります。

●電話機などに水滴が付いた場合は、乾いた布でふき取ってください。

●電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。

●指定外のACアダプタは使用しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

●振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●受話音量増幅スイッチを「NH」に切り替えている場合は、標準ハンドセットは絶対に使用しないでください。受話器から過大音量が発生して耳に衝撃を受ける場合があります。

お願い

●主装置や電話機などをぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。主装置や電話機などの変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

●電話機などを落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

●電話機コードを引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。

●停電中に主装置の電源スイッチを切らないでください。停電復旧時に使用できなくなります。

●停電のときは、停電用電話機を使用してください。
- 他の内線電話機は使えません。
- ドアホンは使えません。

●故障の原因となりますので、次のような場所への設置は避けてください。
- 製氷倉庫など特に温度が下がる場所。
- 塵・ほこり・鉄粉・有害ガスなどが発生する場所。

●電気製品・AV機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、インバータエアコン、電磁調理器など）。
- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、主装置や電話機などの設置場所を移動してみてください。

●硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（海岸）などでは、主装置や電話機などの寿命が短くなることがあります。

●電話機などは平らな面に置いてお使いください。

●定期的な内部の掃除を販売店にご相談ください。内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿度の多くなる時期の前に行うと、より効果的です。なお、内部掃除費用については販売店にご相談ください。

●使用済みの電池「電池の入った製品」は火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となることがあります。

●非常時以外は、動作中に非常用主電源スイッチを OFF にしないでください。

個人情報の取り扱いについて

●本商品を廃棄、譲渡、返却される場合は、発信履歴や着信履歴、および個人電話帳などの重要な個人情報が盗まれることのないよう、必ず個人情報を削除してください。

目　次

安全にお使いいただくために必ずお読みください

1. はじめに

本取扱説明書の読み方……1-2
マーク／表記について……1-3

2. お使いいただく前に

多機能電話機における設定例……2-2
表示一覧……2-3
システム電話機（親機）の確認方法……2-4

3. ボイスメール機能編

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする……3-2
留守録応答メッセージを選択する……3-4
留守録モニタ開始方法を選択する……3-6
留守録自動発報先ダイヤルを設定する……3-7
留守録自動発報タイミングを設定する……3-8
発報時刻を設定する……3-9
メッセージ自動消去動作を設定する……3-10
自動消去対象条件を設定する……3-11
録音お知らせメールの動作モードを設定する……3-12
録音お知らせメールの宛先Eメールアドレスを設定する……3-13
自動送信メールアドレス・手動送信メールアドレスを設定する……3-14
留守番スケジュールのスケジュールを登録する……3-16
留守番スケジュールのスケジュール特定日を設定する……3-18
留守番スケジュールのスケジュール即時適用範囲を指定する……3-20
再生パスワード（暗証番号）を変更する……3-22
設定パスワード（暗証番号）を変更する……3-23
同報ボックスを変更する……3-24
留守番電話……3-26
グループ留守番録音を開始／終了する……3-26
個別留守番録音（電話機ごと）を開始／終了する……3-28
ボイスメールにスライド着信する……3-30
留守録中に相手の声をモニタする〈留守録モニタ〉……3-31
伝言が録音されたら自動的に知らせる〈呼び出し〉……3-32
録音内容再生……3-33
録音された内容を再生する……3-33
録音された内容を消去する……3-34
録音された内容を保存する……3-34
録音された伝言を転送する〈振り分け〉……3-35
再生時の暗証番号について〈再生パスワード〉……3-35

応答メッセージ ····· 3-36
応答メッセージを録音する ····· 3-37
応答メッセージを再生／消去する ····· 3-38
応答メッセージを選択する ····· 3-39
外部（外出先）から録音内容再生／録音する〈リモート〉 ····· 3-40
録音された内容を外出先から再生する ····· 3-40
録音された内容を外出先から再生する〈取次再生〉 ····· 3-42
外出先から留守番電話をオン／オフする ····· 3-43
外出先から伝言を録音する〈リモート伝言録音〉 ····· 3-45
通話録音（発信／着信） ····· 3-46
お話しを手動で録音する ····· 3-46
お話しを自動で録音する ····· 3-48
録音した通話の保存先を変更する ····· 3-50
通話録音を中止する ····· 3-50
通話録音の再生 ····· 3-51
通話録音された内容を再生する ····· 3-51
通話録音された内容を消去する ····· 3-52
通話録音された内容を保存する ····· 3-53
通話録音された内容を転送する〈振り分け〉 ····· 3-53
再生時の暗証番号について〈再生パスワード〉 ····· 3-54
伝言録音機能 ····· 3-55
メッセージを指定ボックス／同報ボックスに録音する〈伝言録音／同報録音〉 ····· 3-55
録音お知らせメール ····· 3-56
録音お知らせメールを送信する ····· 3-56
録音内容を添付したお知らせメールを送信する ····· 3-56
録音お知らせメールを受信する ····· 3-57
音声ファイルを再生する ····· 3-58

4. メッセージ機能編

音声案内 ····· 4-2
音声案内サービス概要 ····· 4-2
固定メッセージの再生 ····· 4-3
可変メッセージの録音 ····· 4-3
可変メッセージの再生 ····· 4-4
可変メッセージの消去 ····· 4-5
案内サービス ····· 4-6

5. 音声応答自動振分機能（IVR）編

音声応答自動振分機能（IVR） ····· 5-2
音声応答自動振分機能（IVR）概要 ····· 5-2
IVRの動作例 ····· 5-3
IVRの応答動作例 ····· 5-4
IVR可変ガイダンス登録 ····· 5-5
可変ガイダンスを登録する ····· 5-6

目　次

IVR機能開始／停止……5-8
IVRサービスを開始／停止する……5-8
IVR呼び出し……5-9
発信者が選択したシナリオを確認する……5-9

6. 管理者編

保守について……6-2
仕様……6-3
ご注意……6-4
アフターサービスについて……6-5

索引

索引……索引-1

1.はじめに

本取扱説明書の読み方

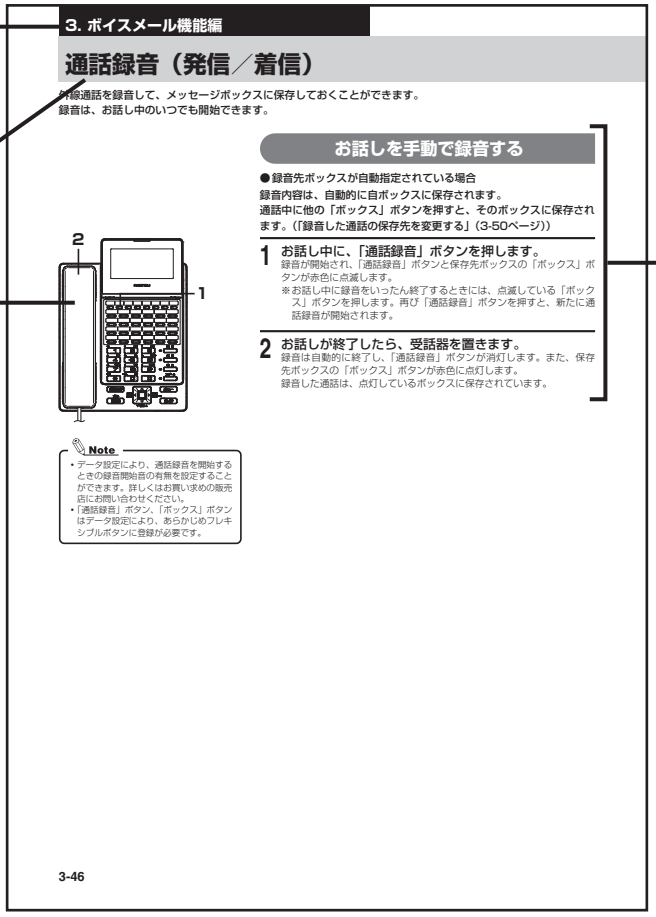
この取扱説明書に記載したディスプレイの表示などは、操作方法を説明するためのサンプルです。
実際の表示と異なることがあります。

■ページ構成

章タイトル
章ごとにタイトルをつけています。

タイトル
操作目的ごとにタイトルをつけています。

電話機イラスト
操作で使うボタンなどの位置を示しています。



操作手順説明
準備や操作手順を順番に説明しています。

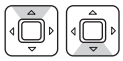
Note

- あらかじめ設定／データ変更／データ設定／システム設定と記載されている箇所は、お買い求めの販売店、もしくは工事店にご依頼・お問い合わせください。

マーク／表記について

この取扱説明書で使用するマークや表記には、次のようなものがあります。
「安全にお読みいただくために必ずお読みください」（2ページ）に記載している警告マークと合わせて、内容を理解してからお使いください。

マーク	説明
Note	注意事項、知っておいていただきたい内容、役立つ内容などを説明しています。
オプション	マークのついている項目をご使用になるには、機器の追加が必要です。

表記例	説明
「外線」ボタン 「保留」ボタン	各種機能（外線、保留、発信、索線など）を割り当てた、フレキシブルボタンのことを示しています。
「機能」ボタン	機能 のことを示しています。
「電話帳」ボタン	文字 電話帳 のことを示しています。
着信履歴ボタン	のことを示しています。
発信履歴ボタン	のことを示しています。
「0」「1」～「9」 「#」、「*」	ダイヤルボタン（ 0 ～ 9 、 # 、 * ）のことを示しています。
上下ボタン	 のことを示しています。
上下左右ボタン	のことを示しています。
「決定」ボタン	のことを示しています。
音量ボタン	のことを示しています。
文字ボタン	文字 電話帳 のことを示しています。
「機能」＋「1」「1」ボタン	機能 を押し、続けて 1 、さらに続けて 1 と押すことを示しています。

■フレキシブルボタンについて

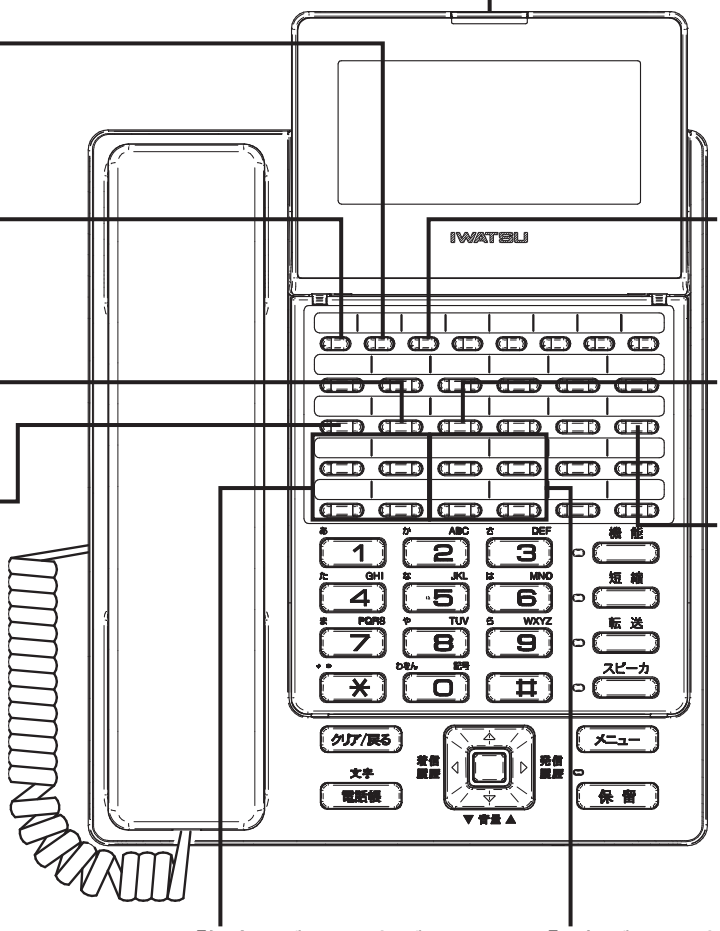
多機能電話機の1から5段目キーを、フレキシブルボタンと呼びます。
あらかじめ、フレキシブルボタンに各種機能を登録・設定しておくことで、いろいろな機能をワンタッチで操作できます。

MEMO

2.お使い
いただく前に

多機能電話機における設定例

多機能電話機のフレキシブルボタンにボイスメール用のボタンを設定することにより、ボイスメールの機能を活用することができます。



「メッセージランプ」
ボックスボタンと連動し緑のランプが点灯・消灯します。

「通話録音」ボタン
通話録音を開始またはキャンセルするときに使います。

「自ボックス」ボタン
自分のメールボックスのメッセージを再生するときに使います。

「伝言録音」ボタン
伝言を録音するときに使います。

「留守録モニタ」ボタン
留守番録音中にモニタするときに使います。

「音声ファイル送信」ボタン
録音内容を添付したお知らせメールを手動送信するときに使います。

「留守番」ボタン
留守番録音を行うときに使います。

「不在転送」ボタン
個別留守番録音を開始またはキャンセルするときに使います。

「個人用ボックス」ボタン
通話録音の録音先を指定するときや、そのメールボックスのメッセージを再生するときに使います。

「同報ボックス」ボタン
同じメッセージを複数の人に録音するときに使います。

Note

- ボイスメール用ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- メッセージランプのボックスボタンとの連動は、設定によります。詳しくはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

表示一覧

■フレキシブルボタンのランプ表示

ボタン	ランプ	状態
「自ボックス」ボタン	点灯（赤）	ボックスに聞いていない録音がある
	点滅（赤）	保存先ボックスに指定されている
	消灯	ボックスに聞いていない録音がない　注1
「通話録音」ボタン	点滅（赤）	通話録音中
	消灯	通話録音停止中
「伝言録音」ボタン	点滅（赤）	伝言録音中
	消灯	伝言録音停止中
「個人用ボックス」ボタン	点灯（赤）	ボックスに聞いていない録音がある
	点滅（赤）	保存先ボックスに指定されている
	消灯	ボックスに聞いていない録音がない　注1
「留守番」ボタン	点灯（赤）	留守番機能が開始している状態
	消灯	留守番機能が解除された状態
「留守録モニタ」ボタン	点滅（赤）	留守録モニタ中、着信
	点滅（緑）	留守録モニタ中
	消灯	留守録モニタ停止中
「不在転送」ボタン　注2	点灯（赤）	即時転送モード
	点滅（赤）	話中・未応答転送モード
	点滅（赤）、消灯を繰り返す	未応答転送モード
	消灯	不在転送OFF
「音声ファイル送信」ボタン	消灯	常時消灯

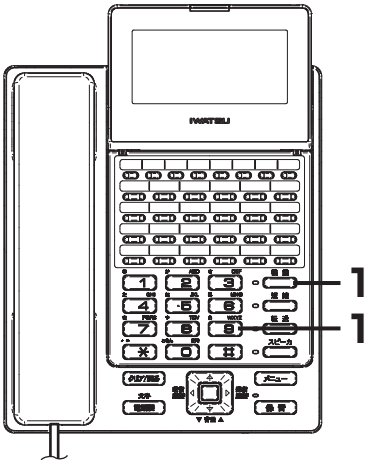
注1：データ設定により、ボックス内の録音メッセージが0件になったときに消灯させることもできます。
　　詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
注2：データ設定で固定不在転送が登録されているときは点灯しません。

■ディスプレイ表示

状態	表示内容	備考
録音メモリ不足	ロクオンメモリガワズカデス	録音可能時間が、システムの最大録音時間の3%未満となった場合、または最大録音件数に達したとき。
全使用中	VMLセツゾクカイセンBUSY	ボイスメールの全チャネルが使用中になったとき、待機中の端末に表示されます。
全使用	VMLシヨウチュウ	ボイスメールにアクセスしたとき、全チャネルが使用中だった場合、操作端末に表示されます。

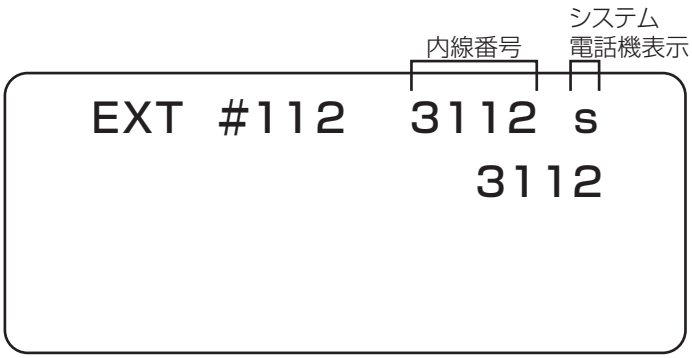
システム電話機（親機）の確認方法

システム電話機は、次の操作で確認できます。



1 受話器を置いた状態で、「機能」＋「9」「9」ボタンを押します。

※システム電話機は、内線番号の後に“s”が表示されます。



3.ボイスメール
機能編

オプション マークがついている項目は、機器の追加が必要です。

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

「メニュー」ボタンの留守番／メール設定メニューで、個別ボックス、グループボックス、同報ボックスの留守番動作に関する設定ができます。
各ボックスのボックス番号およびパスワードについては、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

留守録機能を動作させるためには、あらかじめ設定が必要です。

設定項目名				参照ページ
1 個別ボックス	1 留守録応答メッセージ			3-4
	2 留守録モニタ開始方法			3-6
	3 留守録自動発報設定	1 発報先ダイヤル	内線	3-7
			外線	
		2 発報タイミング		3-8
		3 定刻発報時刻1		3-9
		4 定刻発報時刻2		
		5 定刻発報時刻3		
		6 定刻発報時刻4		
	4 メッセージ自動消去設定	自動消去動作		3-10
		自動消去対象条件		3-11
	5 録音お知らせメール	1 メール送信動作		3-12
		2 宛先Eメールアドレス設定		3-13
	6 音声ファイル添付	1 自動送信メールアドレス		3-14
		2 手動送信メールアドレス		
	9 再生パスワード変更			3-22
	0 設定パスワード変更			3-23
2 留守番グループボックス	1 留守録応答メッセージ			3-4
	2 留守録モニタ開始方法			3-6
	3 留守録自動発報設定	1 発報先ダイヤル	内線	3-7
			外線	
		2 発報タイミング		3-8
		3 定刻発報時刻1		3-9
		4 定刻発報時刻2		
		5 定刻発報時刻3		
		6 定刻発報時刻4		
	4 メッセージ自動消去設定	自動消去動作		3-10
		自動消去対象条件		3-11
	5 録音お知らせメール	1 メール送信動作		3-12
		2 宛先Eメールアドレス設定		3-13
	6 音声ファイル添付	1 自動送信メールアドレス		3-14
		2 手動送信メールアドレス		

設定項目名					参照ページ
[2] 留守番グループボックス	[7] 留守番スケジュール	[1] スケジュール登録	[1] 月曜日	スケジュール時刻1～4	3-16
			[2] 火曜日	スケジュール時刻1～4	
			[3] 水曜日	スケジュール時刻1～4	
			[4] 木曜日	スケジュール時刻1～4	
			[5] 金曜日	スケジュール時刻1～4	
			[6] 土曜日	スケジュール時刻1～4	
			[7] 日曜日	スケジュール時刻1～4	
			[8] 特定日1	スケジュール時刻1～4	
			[9] 特定日2	スケジュール時刻1～4	
		[2] スケジュール特定日設定	[1] 特定日1		3-18
			[2] 特定日2		
		[3] スケジュール即時適用			3-20
	[9] 再生パスワード変更				3-22
	[0] 設定パスワード変更				3-23
[3] 同報ボックス (注) システム電話機のみ設定可能です。	[1] 所属ボックス設定	所属ボックス1			3-24
		所属ボックス2			
		所属ボックス3			
		所属ボックス4			
		所属ボックス5			
		・ ・ ・ ・			
		所属ボックス36			
		所属ボックス37			
		所属ボックス38			
		所属ボックス39			
		所属ボックス40			
	[0] 設定パスワード変更				3-23

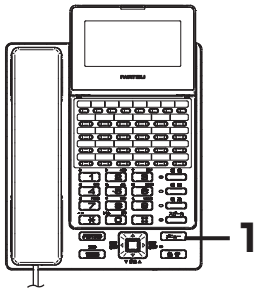
Note

• お買い求め時の設定（初期値）は、次のとおりです。

ボックス	ボックス番号	ボックスインデックス番号	再生パスワード（暗証番号）	設定パスワード（暗証番号）
個別ボックス	3001～3128	1～128	0000	1111
留守番グループボックス	8001～8060	801～860	0000	1111
同報ボックス	9001～9060	901～960	－	1111

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

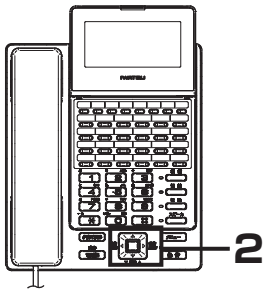
留守録応答メッセージを選択する



1 受話器を置いた状態で「メニュー」ボタンを押します。
メインメニュー画面が表示されます。

```
1 電話機設定
2 電話帳編集
3 不在転送設定
```

```
4 ﾎﾞｲｽﾒｰﾙ設定
5 個人情報削除
```



2 上下ボタンで“4 ボイスメール設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

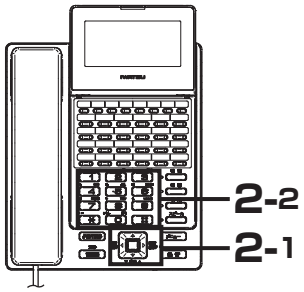
●システム電話機以外の電話機で、かつキーパターン上にボックスキーがある場合
ボックス選択画面が表示されます。

```
ﾎﾞｯｸｽ選択
ﾎﾞｯｸｽｷｰまたは留守番
ｷｰを押してください
[点灯中のｷｰを選択可]
```

Note
- システム電話機以外の電話機では、キーパターン上にボックスキーがない場合、“この電話機では設定できません”と表示されます。

●システム電話機の場合
ボックス種別選択画面が表示されます。

```
1 個別ﾎﾞｯｸｽ
2 留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾞｯｸｽ
3 同報ﾎﾞｯｸｽ
```



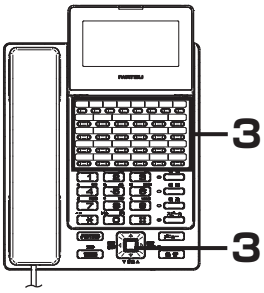
1 上下ボタンでボックス種別を選択し、「決定」ボタンを押します。
「1 個別ボックス」または「3 同報ボックス」を選択した場合は、ボックス番号入力画面が表示されます。

```
                    1
ﾎﾞｯｸｽ番号?
```

「2 留守番グループボックス」を選択した場合は、グループ番号入力画面が表示されます。

```
                    1
ｸﾞﾙｰﾌﾟ番号?
(1～60)
```

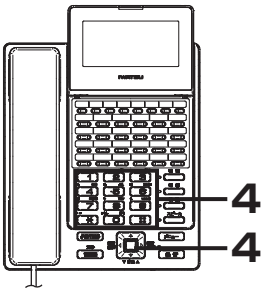
2 ボックス番号またはグループ番号を入力します。



3 システム電話機以外の電話機は、赤点灯中の「ボックス」ボタンまたは「留守番」ボタンを押して、「決定」ボタンを押します。

システム電話機の場合はパスワード入力画面が表示されます。
※押されたボタンは赤点滅します。

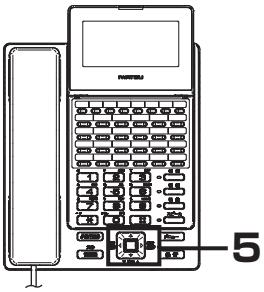
```
                    1
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ?
```



4 設定パスワード（暗証番号）を入力し、「決定」ボタンを押します。

留守番設定画面が表示されます。

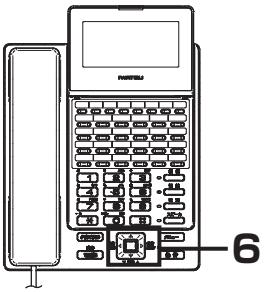
```
1 留守録応答ﾒｯｾｰｼﾞ
2 留守録ﾓﾆﾀ開始方法
3 留守録自動発報設定
[応答ﾒｯｾｰｼﾞ1          ]
```



5 上下ボタンで“1 留守録応答メッセージ”を選択し、「決定」ボタンを押します。

応答メッセージ選択画面が表示されます。

```
留守録応答ﾒｯｾｰｼﾞ
応答ﾒｯｾｰｼﾞ1
応答ﾒｯｾｰｼﾞ2
応答ﾒｯｾｰｼﾞ3
```



6 上下ボタンで応答メッセージを選択し、「決定」ボタンを押します。

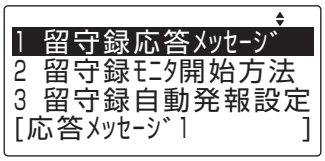
留守番設定画面に戻ります。

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

留守録モニタ開始方法を選択する

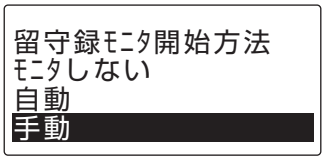
1 「留守録応答メッセージを選択する」（3-4ページ）の手順（1）～（4）と同様に操作を行います。

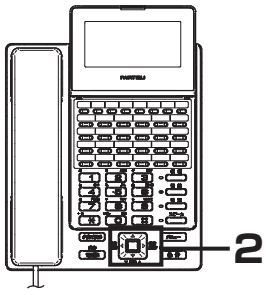
留守番設定画面が表示されます。



2 上下ボタンで“2 留守録モニタ開始方法”を選択し、「決定」ボタンを押します。

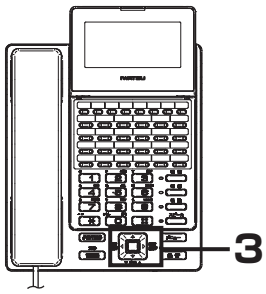
留守録モニタ開始方法選択画面が表示されます。





3 上下ボタンで留守録モニタ開始方法を選択し、「決定」ボタンを押します。

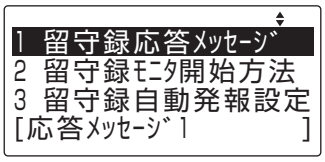
留守番設定画面に戻ります。

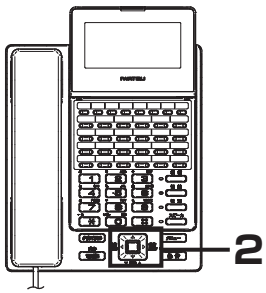


留守録自動発報先ダイヤルを設定する

1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

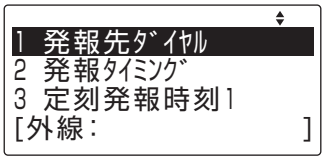
留守番設定画面が表示されます。

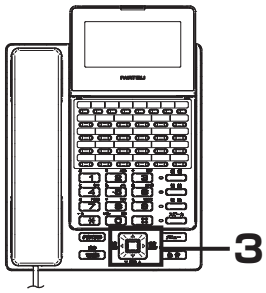




2 上下ボタンで“3 留守録自動発報設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

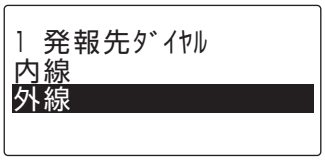
留守録自動発報設定画面が表示されます





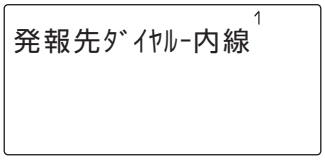
3 上下ボタンで“1 発報先ダイヤル”を選択し、「決定」ボタンを押します。

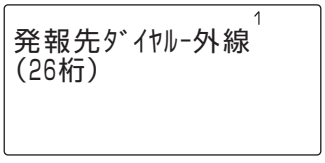
発報先の選択画面が表示されます。

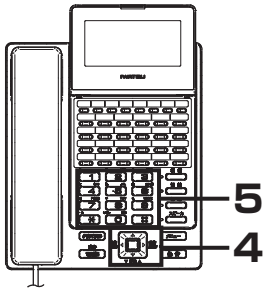


4 上下ボタンで登録する電話番号が外線であるか内線であるかを選択し、「決定」ボタンを押します。

発報先ダイヤル入力画面が表示されます。







5 発報先の電話番号をダイヤルし、「決定」ボタンを押します。

留守録自動発報設定画面に戻ります。

- **●内線を呼出先とする場合**
  →呼出先の内線番号を登録します。
- **●外線を呼出先とする場合**
  →呼出先の電話番号を登録します。

Note

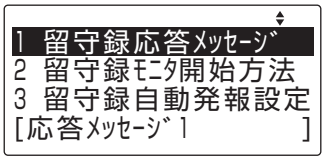
- データ設定にて、外線アクセス番号、ポーズ時間の登録が必要な場合があります。詳しくは販売店にお問い合わせください。

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

留守録自動発報タイミングを設定する

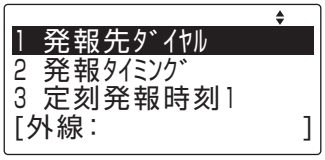
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

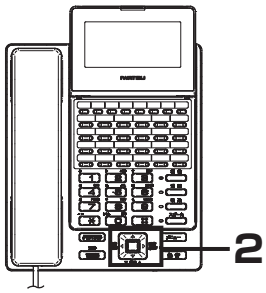
留守番設定画面が表示されます。



2 上下ボタンで“3 留守録自動発報設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

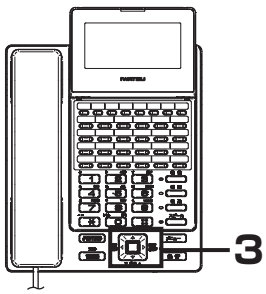
留守録自動発報設定画面が表示されます。





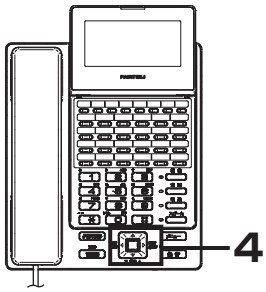
3 上下ボタンで“2 発報タイミング”を選択し、「決定」ボタンを押します。

発報タイミング設定画面が表示されます。



4 上下ボタンで発報タイミングを選択し、「決定」ボタンを押します。

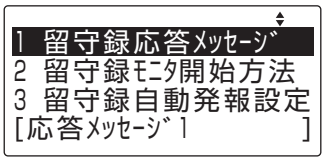
留守録自動発報設定画面に戻ります。



発報時刻を設定する

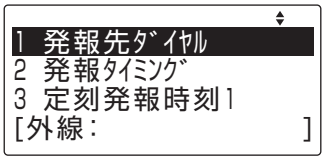
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

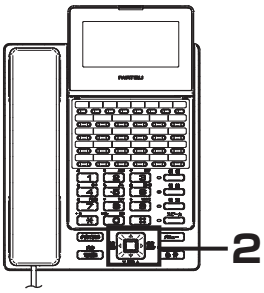
留守番設定画面が表示されます。



2 上下ボタンで“3 留守録自動発報設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

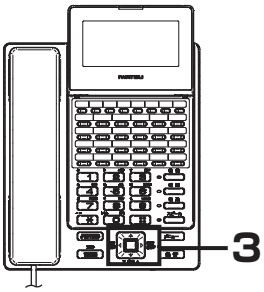
留守録自動発報設定画面が表示されます。





3 上下ボタンで“3 定刻発報時刻1”～“6 定刻発報時刻4”から設定する発報時刻を選択し、「決定」ボタンを押します。

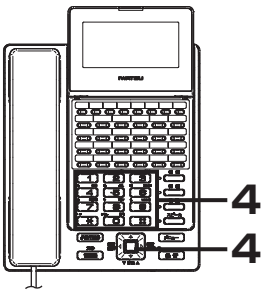
発報時刻設定画面が表示されます。



4 24時間表記で発報時刻（数字4桁）を入力し、「決定」ボタンを押します。

〈例〉午後3時30分の場合は、「1」「5」「3」「0」ボタンを押します。

留守録自動発報設定画面に戻ります。



「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

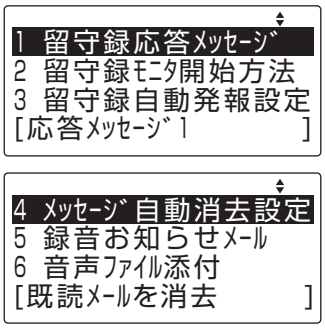
Note

・この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて個別ボックスまたは留守番ボックスを指定する必要があります。

メッセージ自動消去動作を設定する

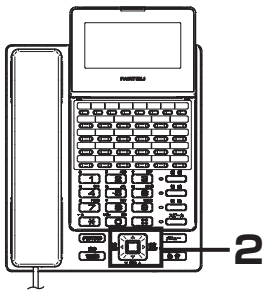
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

留守番設定画面が表示されます。



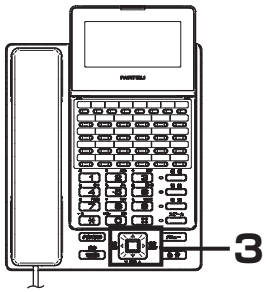
2 上下ボタンで“4 メッセージ自動消去設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

メッセージ自動消去設定画面が表示されます。



3 上下ボタンで“自動消去する”または“自動消去しない”を選択し、「決定」ボタンを押します。

“自動消去しない”を選択した場合は、留守番設定画面に戻ります。
“自動消去する”を選択した場合は、「自動消去対象条件を設定する」(3-11ページ）の手順（3）以降で設定してください。



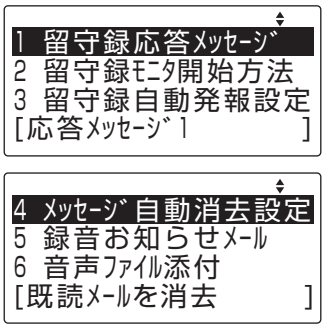
自動消去対象条件を設定する

Note

- この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて個別ボックスまたは留守番グループボックスを指定する必要があります。

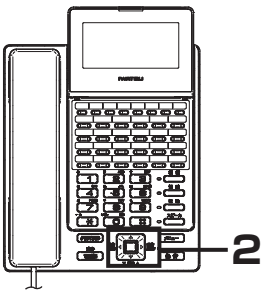
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

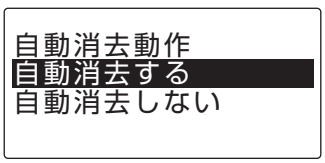
留守番設定画面が表示されます。



2 上下ボタンで“4 メッセージ自動消去設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

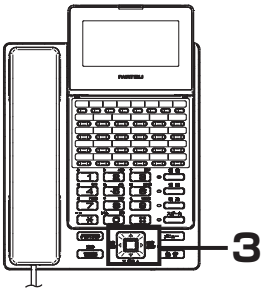
メッセージ自動消去設定画面が表示されます。

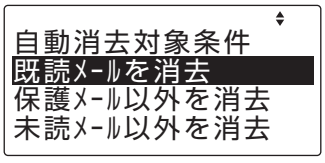




3 上下ボタンで“自動消去する”を選択し、「決定」ボタンを押します。

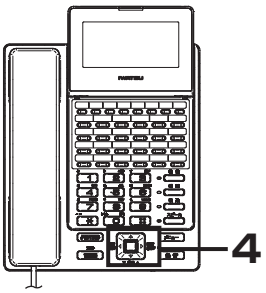
自動消去対象条件設定画面が表示されます。

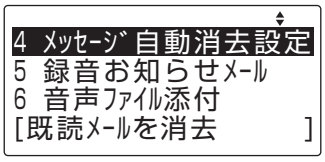




4 上下ボタンで自動消去対象条件を選択し、「決定」ボタンを押します。

留守番設定画面が表示されます。





「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

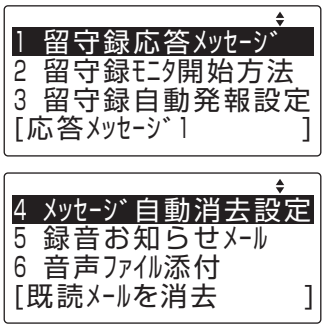
Note

- この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて個別ボックスまたは留守番グループボックスを指定する必要があります。

録音お知らせメールの動作モードを設定する

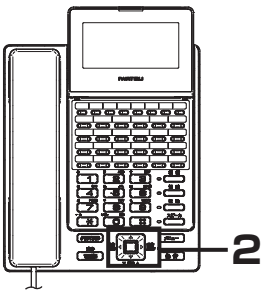
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

留守録設定画面が表示されます。



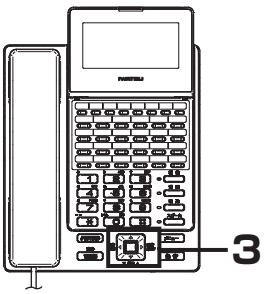
2 上下ボタンで“5 録音お知らせメール”を選択し、「決定」ボタンを押します。

録音お知らせ設定メニュー画面が表示されます。



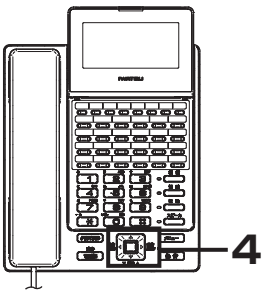
3 上下ボタンで“1 メール送信動作”を選択し、「決定」ボタンを押します。

動作モード選択画面が表示されます。



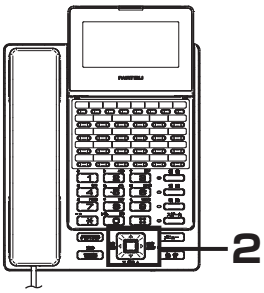
4 上下ボタンで動作モードを選択し、「決定」ボタンを押します。

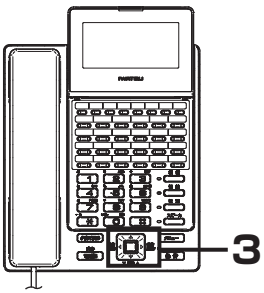
録音お知らせ設定メニュー画面に戻ります。

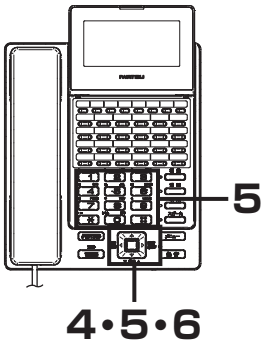


録音お知らせメールの宛先Eメールアドレスを設定する

Note
- この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて個別ボックスまたは留守番グループボックスを指定する必要があります。







1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。
留守録設定画面が表示されます。

```
1 留守録応答ﾒｯｾｰｼﾞ
2 留守録ﾓﾆﾀ開始方法
3 留守録自動発報設定
[応答ﾒｯｾｰｼﾞ1          ]
```

```
4 ﾒｯｾｰｼﾞ自動消去設定
5 録音お知らせﾒｰﾙ
6 音声ﾌｧｲﾙ添付
[既読ﾒｰﾙを消去         ]
```

2 上下ボタンで“5 録音お知らせメール”を選択し、「決定」ボタンを押します。
録音お知らせ設定メニュー画面が表示されます。

```
1 ﾒｰﾙ送信動作
2 宛先Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ設定

[ﾒｰﾙ送信する          ]
```

3 上下ボタンで“2 宛先Eメールアドレス設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。
メール登録選択画面が表示されます。

```
1 登録なし
2 登録なし
3 登録なし
```

4 上下ボタンで1～3のいずれかを選択し、「決定」ボタンを押します。
Eメールアドレス入力画面が表示されます。

```
                    A
宛先Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ1
(半角64文字)
_
```

5 宛先メールアドレスを文字入力し、「決定」ボタンを押します。
送信オプションメニューが表示されます。

```
iwatsu@xxx.co.jp
ﾒｰﾙ送信する
ﾒｰﾙ送信しない
編集
```

6 上下ボタンでいずれかを選択し、「決定」ボタンを押します。

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

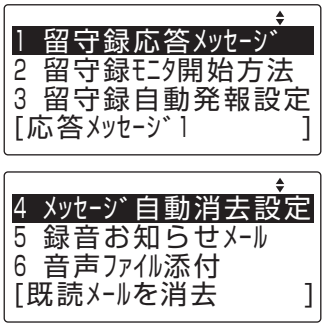
Note

・この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて個別ボックスまたは留守番ボックスを指定する必要があります。

自動送信メールアドレス・手動送信メールアドレスを設定する

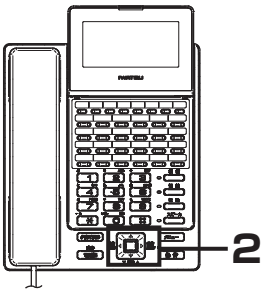
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

留守録設定画面が表示されます。



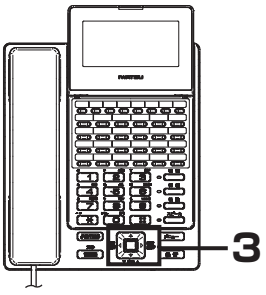
2 上下ボタンで“6 音声ファイル添付”を選択し、「決定」ボタンを押します。

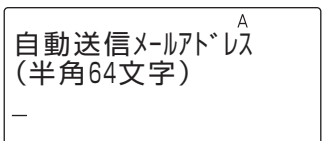
送信メールアドレス選択メニュー画面が表示されます。



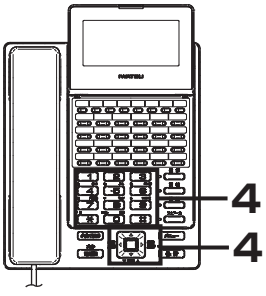
3 上下ボタンで“1 自動送信メールアドレス”または“2 手動送信メールアドレス”を選択し、「決定」ボタンを押します。

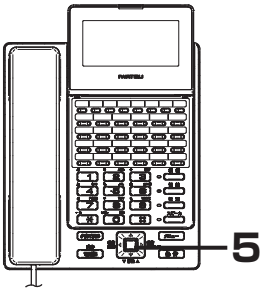
メールアドレス入力画面が表示されます。





4 メールアドレスを文字入力します。

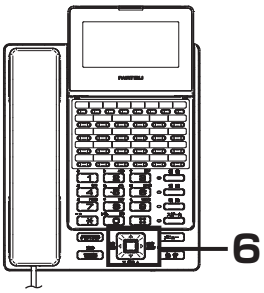




5 入力を終えたら「決定」ボタンを押します。

モード選択メニュー画面が表示されます。

suzuki@xxx.co.jp
メール送信する
メール送信しない
編集



6 上下ボタンで“メール送信する”を選択し、「決定」ボタンを押します。

送信メールアドレス選択メニュー画面に戻ります。

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

留守番スケジュールのスケジュールを登録する

Note

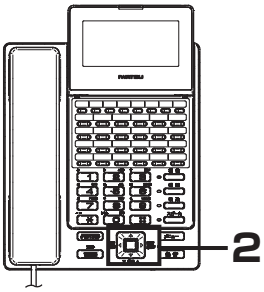
・この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて留守番グループボックスを指定する必要があります。

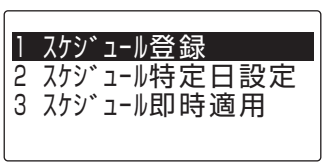
1 「留守番スケジュールのスケジュール特定日を設定する」(3-18ページ)の手順(1)～(5)と同様の操作を行います。

留守録設定画面が表示されます。

2 上下ボタンで“7 留守番スケジュール”を選択し、「決定」ボタンを押します。

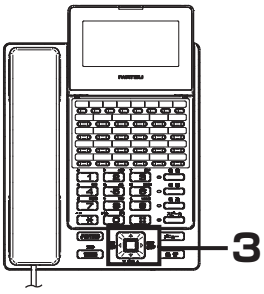
スケジュール設定メニュー画面が表示されます。

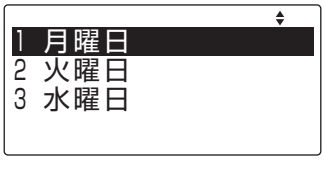




3 上下ボタンで“1 スケジュール登録”を選択し、「決定」ボタンを押します。

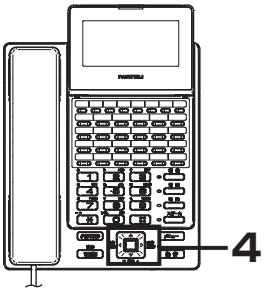
曜日選択メニュー画面が表示されます。

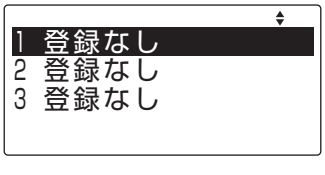


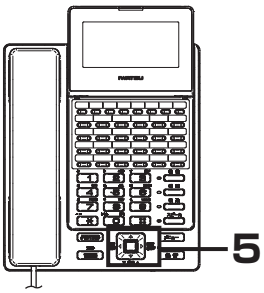


4 上下ボタンで曜日または、特定日を選択し、「決定」ボタンを押します。

スケジュール時刻設定画面が表示されます。



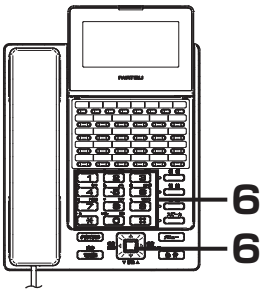




5 上下ボタンでスケジュール時刻設定（1～4）を選択し、「決定」ボタンを押します。

時刻設定画面が表示されます。

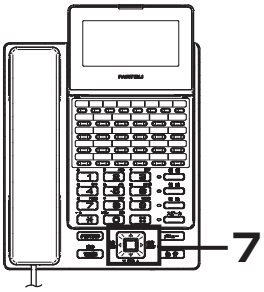
```
                        1
月曜日-ｽｹｼﾞｭｰﾙ1
(00:00-24:00)
              :  -  :
```



6 24時間表記で開始時刻と終了時刻（数字4桁）を入力し、「決定」ボタンを押します。

応答メッセージ選択画面が表示されます。

```
                        ▲
月曜日-ｽｹｼﾞｭｰﾙ1
応答ﾒｯｾｰｼﾞ1
応答ﾒｯｾｰｼﾞ2
応答ﾒｯｾｰｼﾞ3
                        ▼
```



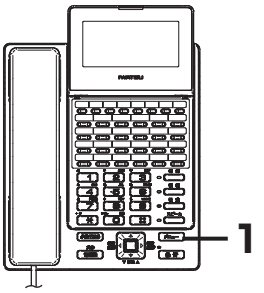
7 上下ボタンで応答メッセージを選択し、「決定」ボタンを押します。

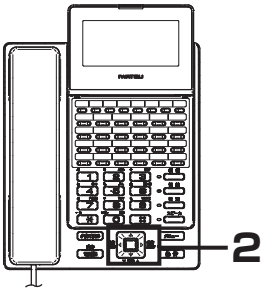
スケジュール時刻設定画面に戻ります。

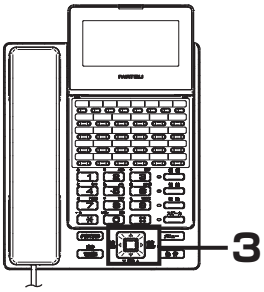
「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

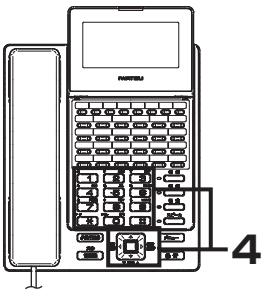
Note

- この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて留守番グループボックスを指定する必要があります。
- システム電話機以外の電話機では、キーパターン上にボックスキーがない場合、“この電話機では設定できません”と表示されます。







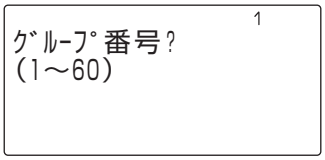


留守番スケジュールのスケジュール特定日を設定する

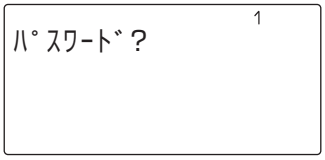
1 受話器を置いた状態で「メニュー」ボタンを押します。
メインメニュー画面が表示されます。

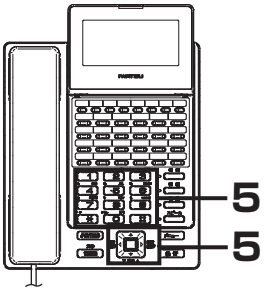
2 上下ボタンで“4 ボイスメール設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。
ボイスメール設定画面が表示されます。

3 上下ボタンで“2 留守番グループボックス”を選択し、「決定」ボタンを押します。
グループ番号入力画面が表示されます。



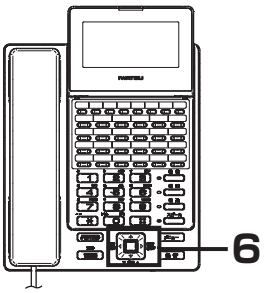
4 グループ番号（1～60）を入力し、「決定」ボタンを押します。
パスワード入力画面が表示されます。





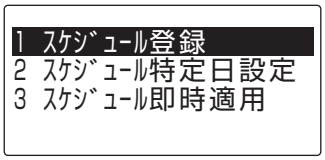
5 設定パスワード（暗証番号）を入力し、「決定」ボタンを押します。

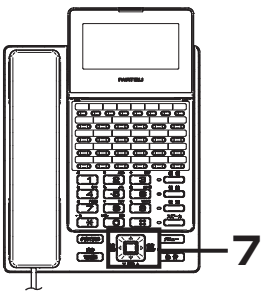
留守録設定画面が表示されます。



6 上下ボタンで“7 留守番スケジュール”を選択し、「決定」ボタンを押します。

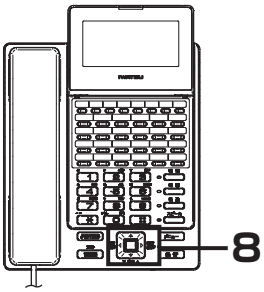
スケジュール設定メニュー画面が表示されます。





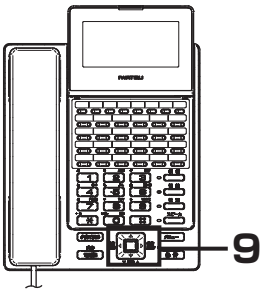
7 上下ボタンで“2 スケジュール特定日設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

特定日選択メニュー画面が表示されます。



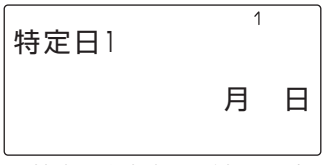
8 上下ボタンで“特定日1”または“特定日2”を選択し、「決定」ボタンを押します。

特定日選択メニュー画面が表示されます。



9 上下ボタンで“新規登録”または特定日を選択し、「決定」ボタンを押します。

特定日入力画面が表示されます。



※特定日を新規に登録する場合は、“新規登録”を選択してください。
※月日はそれぞれ2桁で入力してください。
例 01年02日

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

留守番スケジュールのスケジュール即時適用範囲を指定する

Note

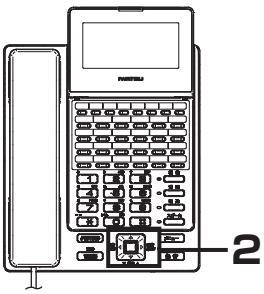
・この機能を利用するには、ボックス種別の選択にて留守番ボックスを指定する必要があります。

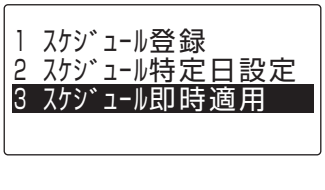
1 「留守番スケジュールのスケジュール特定日を設定する」(3-18ページ)の手順(1)～(5)と同様の操作を行います。

留守録設定画面が表示されます。

2 上下ボタンで“7 留守番スケジュール”を選択し、「決定」ボタンを押します。

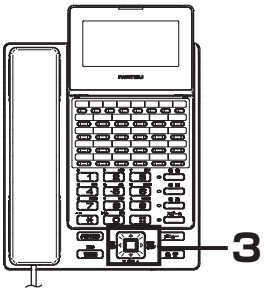
スケジュール設定メニュー画面が表示されます。



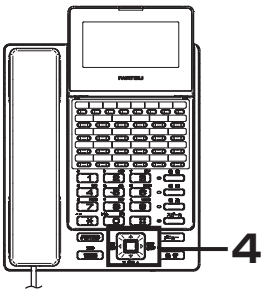


3 上下ボタンで“3 スケジュール即時適用”を選択し、「決定」ボタンを押します。

即時適用画面が表示されます。

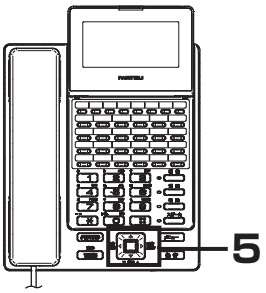


※このメニュー画面は、システム電話機のみ表示されます。



4 **上下ボタンで適応範囲を選択し、「決定」ボタンを押します。**

設定したｽｹｼﾞｭｰﾙを
適用しますか?
はい
いいえ



5 **上下ボタンで“はい”または“いいえ”を選択し、「決定」ボタンを押します。**

以下の設定完了画面が表示され、３秒後にスケジュール設定メニュー画面に戻ります。

設定したｽｹｼﾞｭｰﾙを
適用しました

「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

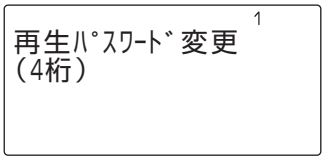
再生パスワード（暗証番号）を変更する

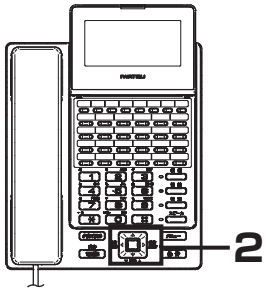
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

留守番設定画面が表示されます。

2 上下ボタンで“9 再生パスワード変更”を選択し、「決定」ボタンを押します。

再生パスワード（暗証番号）変更画面が表示されます。

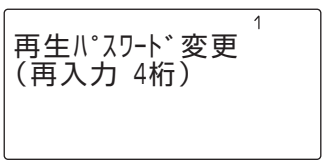


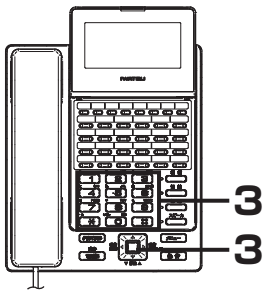


3 新しい再生パスワード（暗証番号）を入力し、「決定」ボタンを押します。

再生パスワード（暗証番号）再入力画面が表示されます。

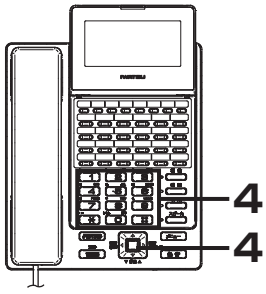
※再生パスワード　数字4桁





4 手順（3）で入力したものと同じ再生パスワード（暗証番号）を入力し、「決定」ボタンを押します。

設定完了画面が表示され、３秒後に留守番設定画面に戻ります。



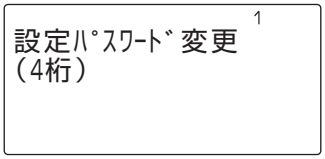
設定パスワード（暗証番号）を変更する

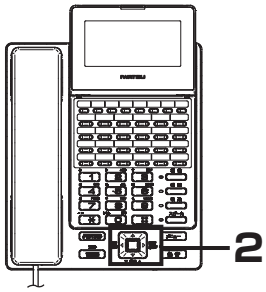
1 「留守録応答メッセージを選択する」(3-4ページ)の手順（1）～（4）と同様の操作を行います。

留守番設定画面が表示されます。

2 上下ボタンで“0 設定パスワード変更”を選択し、「決定」ボタンを押します。

設定パスワード（暗証番号）変更画面が表示されます。

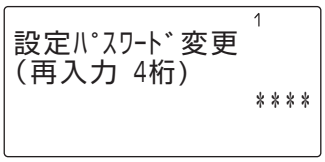


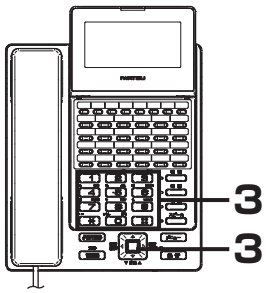


3 新しい設定パスワード（暗証番号）を入力し、「決定」ボタンを押します。

設定パスワード（暗証番号）再入力画面が表示されます。

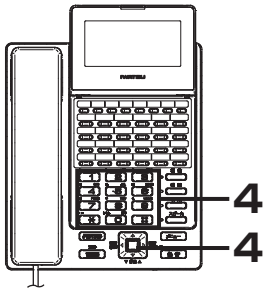
※設定パスワード　数字4桁





4 手順（3）で入力したものと同じ設定パスワード（暗証番号）を入力し、「決定」ボタンを押します。

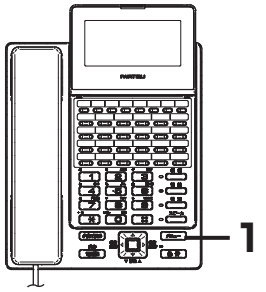
設定完了画面が表示され、3秒後に設定パスワード（暗証番号）変更画面に戻ります。

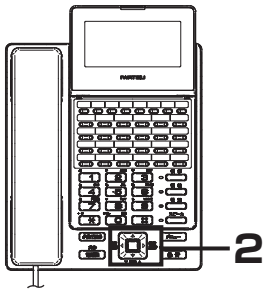


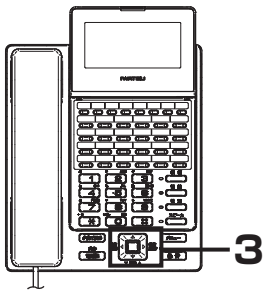
「メニュー」ボタン操作で留守番電話の設定をする

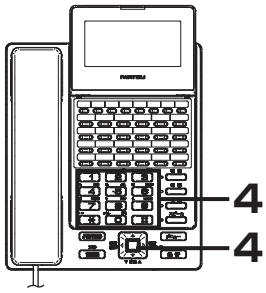
Note

・この機能は、システム電話機でのみご利用になれます。







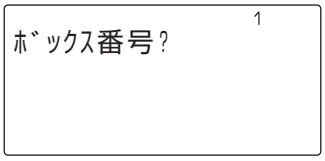


同報ボックスを変更する

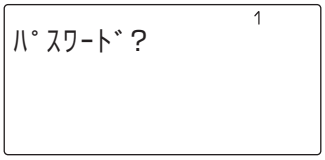
1 **受話器を置いた状態で「メニュー」ボタンを押します。**
メインメニュー画面が表示されます。

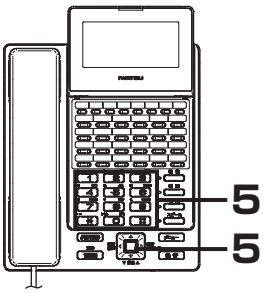
2 **上下ボタンで“4 ボイスメール設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。**
ボイスメール設定画面が表示されます。

3 **上下ボタンで“3 同報ボックス”を選択し、「決定」ボタンを押します。**
ボックス番号入力画面が表示されます。
初期値：9001～9060



4 **ボックス番号を入力し、「決定」ボタンを押します。**
パスワード入力画面が表示されます。

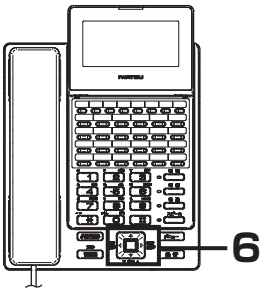




5 設定パスワード（暗証番号）を入力し、「決定」ボタンを押します。

同報ボックス設定選択画面が表示されます。

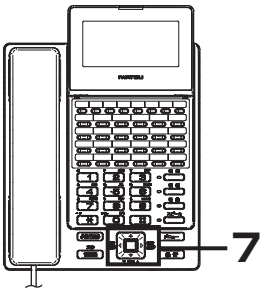
```
1 所属ﾎﾞｯｸｽ設定
0 設定ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ変更
```



6 上下ボタンで“1 所属ボックス設定”を選択し、「決定」ボタンを押します。

所属ボックス選択画面が表示されます。

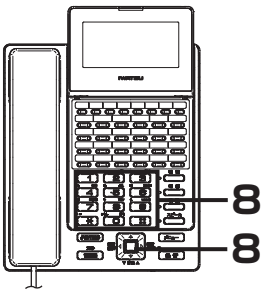
```
所属ﾎﾞｯｸｽ1
所属ﾎﾞｯｸｽ2
所属ﾎﾞｯｸｽ3
[                ]
```



7 上下ボタンで“所属ボックス１”～“所属ボックス40”を選択し、「決定」ボタンを押します。

所属ボックス番号入力画面が表示されます。

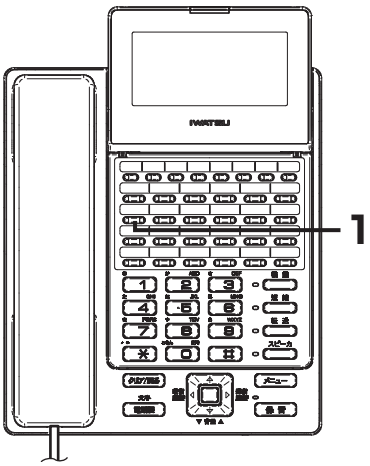
```
                1
所属ﾎﾞｯｸｽ
(4桁)
```



8 ボックス番号を入力し、「決定」ボタンを押します。

所属ボックス選択更画面に戻ります。

留守番電話



Note

- 「留守番」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 応答メッセージの設定は、「応答メッセージを選択する」(3-39ページ)を参照してください。

グループ留守番録音を開始／終了する

システム内の電話機を複数の留守番グループに分けている場合、留守番グループごとに留守番機能の開始／終了(解除)および応答メッセージを設定できます。
留守番機能を開始すると、外線着信時にボイスメールが自動応答し、事前に録音された応答メッセージを流します。また、電話をかけてきた人の用件を指定ボックスに録音できます。

●グループ留守番録音を開始する

1 「留守番」ボタンが消灯しているときに、受話器を置いた状態で、「留守番」ボタンを押します。

ボイスメールアクセス中画面が表示されます。
電話機のスピーカから現在の応答メッセージが流れ、「留守番」ボタンが赤色に点灯し、留守番機能の状態となります。
※「留守番」ボタンを押すごとに、留守／留守解除が切り替わります。

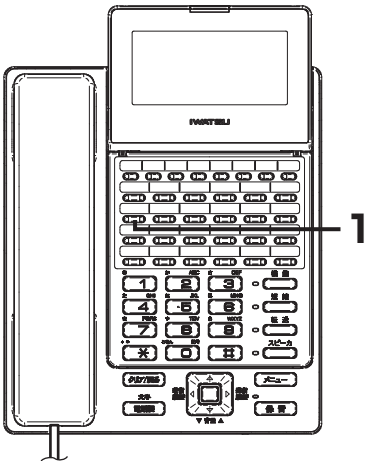
```
ｵｳﾄｳﾒｯｾｰｼﾞ      1
ﾎﾞｲｽﾒｰﾙｱｸｾｽ
```

Note

- 次の場合、留守番機能は開始しません。
  - 留守録用ボックスの録音件数が999件に達している
  - 録音メモリ残量が不足している

  この場合、いったん、聞き終わって不要になった録音内容を消去（「録音された内容を消去する」(3-34ページ)）してから、あらためて留守番機能の開始操作をしてください。データ設定により古いメッセージから自動消去することも可能です。

●グループ留守番録音を解除する



1 「留守番」ボタンが赤色に点灯しているときに、受話器を置いた状態で、「留守番」ボタンを押します。

留守番機能が解除となり、「留守番」ボタンが消灯し、留守録されたメッセージの有無を知らせるガイダンスが電話機のスピーカから自動的にアナウンスされます。
留守録されたメッセージの再生を行うことができます。
※「留守番」ボタンを押すごとに、留守／留守解除が切り替わります。

Note

- 「留守番」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

●グループ留守番録音された用件を再生する

録音された用件は、留守番グループに対応する留守番用の「ボックス」ボタンを押して再生します。

再生方法の詳細については、「録音された内容を再生する」(3-33ページ)を参照してください。

Note

- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- グループ留守番録音は、外線着信（ダイヤルイン着信、iナンバー着信、外線着信（郡着））が対象です。
  - ダイヤルイン着信の内線番号呼びや着サブアドレスなどの個別の電話機が指定される着信は、個別着信になります。
  - DISA着信はグループ留守番録音の対象外です。
- 各留守番グループに対応する留守番用ボックスは、あらかじめ設定が必要です。
- 留守番グループごとに、着信から留守録動作に移行するまでの時間を指定できます。
- 留守番グループは最大60グループまでです。
- 複数の電話機に同じ「留守番」ボタンが割り当てられている場合、同じ留守番グループの「留守番」ボタンに開始／終了状態が反映されます。
- ボイスメールのチャネルがビジーの場合、留守番機能の開始／解除の操作は無効となります。

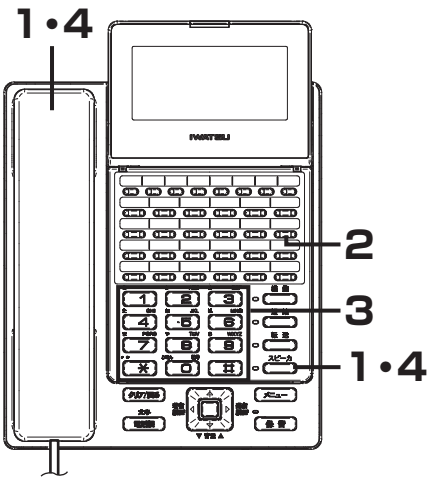
留守番電話

個別留守番録音（電話機ごと）を開始／終了する

電話機への着信をボイスメールに不在転送し、留守番電話としての応答メッセージを流した後、電話をかけてきた人の用件を指定ボックスに録音することができます

Note

- 個別留守番録音は、あらかじめシステムで不在転送を使用できる設定にしておく必要があります。
- 録音された内容は、電話機ごとにあらかじめ録音されている留守録優先ボックスに保存されます。ただし、留守録優先ボックスがあらかじめ登録されていない場合には、電話機対応ボックスに保存されます。
- 応答メッセージは、録音先のボックスに録音しておいてください。（「応答メッセージを録音する」（3-37ページ））留守番機能で使われる応答メッセージは、あらかじめボックスごとに設定することもできます。
- 録音ボックスの録音メモリ残量が不足している場合は、応答専用メッセージが流れた後、お話しが切断されます。
- 録音メモリ残量なしなどで録音が終了した場合、録音が終了した時点までの録音内容がボックスに保存されます。
- 録音可能時間は、ライセンスに依存しますが、次のとおりです。
  - NW-MCU（M-EX）の場合：最大約26時間
  - NW-MCU（M-STまたはL）＋(NW-WGU/VMLまたはNW-WGU/VML-＜２＞)の場合：最大約120時間
  - NW-MCU（M-STまたはL）＋(NW-MBU/VMLまたはNW-MBU/VML-＜２＞)の場合：最大約120時間
- 不在転送の転送モード切り替えにより、話中時および未応答時でもボイスメールに転送して留守番機能を使用できます。



個別留守番録音を開始する

1 受話器を取り上げるか「スピーカ」ボタンを押します。

2 「不在転送」ボタンを押します。
「不在転送」ボタンが赤色に点滅します。

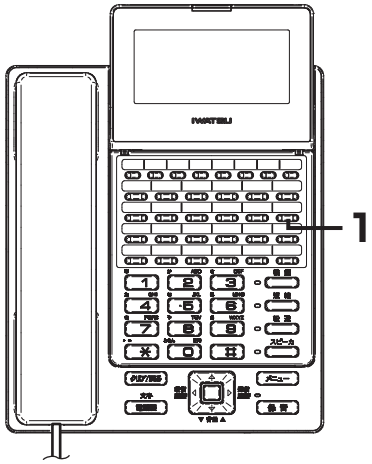
3 ボイスメールのアクセス番号をダイヤルします。
確認音（ピッピッピッ）が聞こえ、「不在転送」ボタンが赤色に点灯します。

4 受話器を置くか「スピーカ」ボタンを押します。

Note

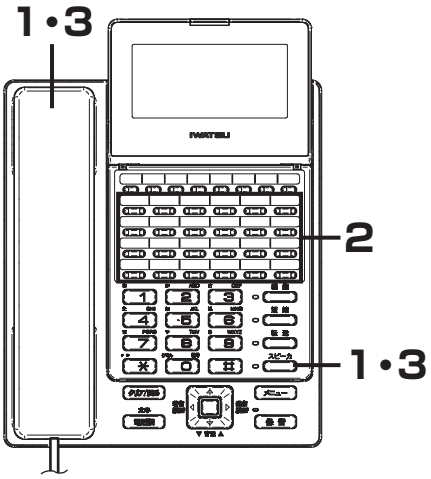
- 「不在転送」ボタンは、データ設定によりあらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- ボイスメールのアクセス番号は、あらかじめ設定する必要があります。
- 転送モードの設定が必要になります。

個別留守番録音を解除する



1 「不在転送」ボタンを押します。
「不在転送」ボタンが消灯します。

留守番電話



●個別留守番録音された用件を再生する

1 受話器を取り上げるか「スピーカ」ボタンを押します。

2 録音先ボックスの「ボックス」ボタンを押します。
ボックスに暗証番号（再生パスワード）が設定されている場合は、「暗証番号をダイヤルしてください」というガイダンスが流れます。ガイダンスに従って、再生パスワードを入力してください。

3 メッセージを聞き終わったら、受話器を置くか「スピーカ」ボタンを押します。

Note
- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

ボイスメールにスライド着信する

外線着信時に、一定時間内に応答しない場合、自動的にボイスメールに接続することができます。ボイスメールに接続後は、リモート操作ガイダンスがアナウンスされます。
これにより、留守番電話をセットし忘れても、ボイスメールで応答できます。
また、外部から伝言の再生などを行えるようになります。

Note
- データ設定で、スライド着信先にボイスメールを指定する必要があります。
- スライド着信に移行するまでの時間は、あらかじめデータ設定が必要です。
- スライド着信先に電話機も設定されている場合、その電話機が個別留守番録音を開始している場合は、ボイスメールへのスライド着信が優先されます。

留守録中に相手の声をモニタする〈留守録モニタ〉

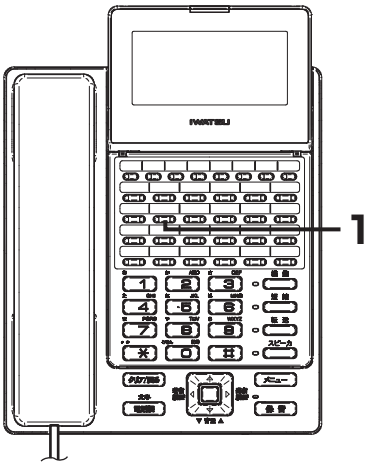
留守番録音中に、スピーカで録音内容をモニタできます。居留守などをしているときにかけてきた相手の声を確認できます。

Note
- 留守録モニタ動作設定は、「留守録モニタ開始方法を選択する」（3-6ページ）を参照してください。

●留守録モニタの開始動作が自動の場合

留守録モニタが自動的に開始され「留守録モニタ」ボタンが緑色で点滅します。
留守録モニタ中は、スピーカ受話状態になります（そのまま受話器を取り上げれば、スピーカから受話器に切り替わります。

Note
- 留守録モニタ中に「留守録モニタ」ボタンを押すと、ピー音が出てお話しできます。
- 「留守録モニタ」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。



Note
- 「留守録モニタ」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 電話機が使用中の場合、留守録開始音は鳴りません。

●留守録モニタの開始動作が手動の場合

着信すると、留守録開始音（ピー）が鳴り、「留守録モニタ」ボタンが赤色で点滅します。

1 留守番録音中に、「留守番モニタ」ボタンを押します。
留守録モニタが開始され、「留守録モニタ」ボタンが緑色で点滅します。
留守録モニタ中は、スピーカ受話状態になります（そのまま受話器を取り上げれば、スピーカから受話器に切り替わります）。

Note
- 留守録モニタ中に受話器を上げると、留守録モニタ中の音声が受話器から聞こえます（留守録モニタは継続しています）
- 留守録モニタ中に受話器を戻すと、留守録モニタは終了し、「留守録モニタ」ボタンが赤色に点滅します。留守録は継続しています。
- 留守録モニタ中に「留守録モニタ」ボタンを押すと、ピー音が出て受話器を上げるとお話しできます。留守録は終了し、その時点までの録音内容を所定のボックスに保存します。
- 1台の電話機で複数のモニタは行えません。
- 1つの留守録を複数の電話機でモニタすることはできません。
- 留守録モニタの開始動作が“自動”に設定されていても、留守録モニタを行う電話機がすでにスピーカオンまたはオフフックの場合は、留守録モニタは開始されません。

伝言が録音されたら自動的に知らせる〈呼び出し〉

伝言が録音されると、あらかじめ設定しておいた相手を自動的に呼び出すことができます。
自動的に呼び出しを行う動作モードには、次のモードがあります。いずれか1つを選択できます。

発報なし　　：呼び出ししません。
定刻発報モード　　：あらかじめ指定した時刻に自動的に呼び出します。
1日に最大4つの時刻を指定できます。
定刻＋即時発報モード：あらかじめ指定した時刻と着信メッセージが保存されたときに自動的に呼び出します。

1 **外出先の電話機で着信したボイスメールからの呼び出しに応答します。**

「この電話は伝言センターからおかけしております。暗証番号をダイヤルしてください」というガイダンスが流れます。

2 **ボックスの暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。**

入力した暗証番号（再生パスワード）が間違っていると、入力エラーのガイダンスが流れます。正しく入力しなおしてください。なお、ガイダンスが流れている間は入力できません。

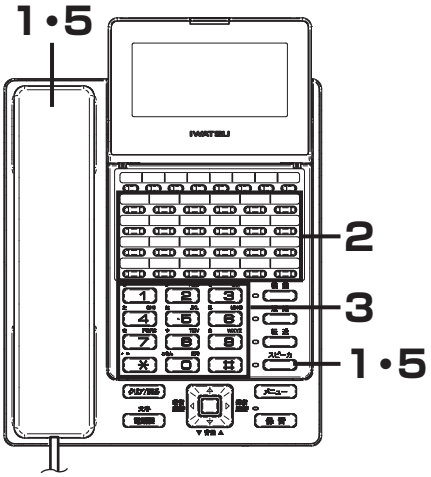
3 **伝言を聞きます。**

4 **伝言を聞き終わったら、お話しを終了します。**

Note

- ボイスメールからの呼び出しに応答しないときは、あらかじめ設定されたリトライ回数、周期で再発信を繰り返します。

録音内容再生



Note

- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 同報ボックスは再生できません。
- 未再生の伝言がなくなると、「ボックス」ボタンは消灯します。
- 発信者番号が通知された相手からの伝言が録音されている場合は、伝言の再生中に、発信者番号をディスプレイに表示します。また、発信者番号が電話帳に登録されている場合は、電話帳に登録している登録名称も表示します。

録音された内容を再生する

留守番電話に残された伝言を聞きます。
聞いていない伝言があるときには、そのボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点灯します。

1 受話器を取り上げるか「スピーカ」ボタンを押します。

2 伝言を聞くボックスの「ボックス」ボタンを押します。

3 ボックスの暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。
ボックスに暗証番号（再生パスワード）が設定されている場合は、「暗証番号をダイヤルしてください」というガイダンスに従って、暗証番号（再生パスワード）を入力してください。
※録音されている伝言が再生されます。

4 伝言を聞きます。
先頭の伝言を再生する前に、未再生の伝言の件数がアナウンスされます。
※複数の伝言が録音されている場合は、連続して再生されます。
※再生中の操作については、「録音内容再生中の操作一覧」（下記）を参照してください。

5 伝言を聞き終わったら、受話器を置くか「スピーカ」ボタンを押します。
すべての伝言を再生し終わり未再生の伝言がなくなると、「ボックス」ボタンは消灯します。

Note

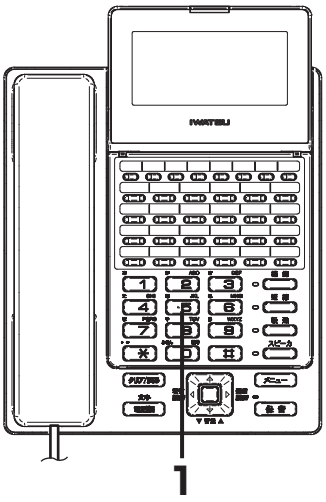
- あらかじめデータ設定により、ボックス内の録音メッセージが0件になったときに消灯させ、録音メッセージがあるときに点灯させることもできます。

■録音内容再生中の操作一覧

録音内容再生中には、次の操作を行えます。

ダイヤル	再生中機能
「1」	複数の録音内容がある場合、1つ前の録音内容を再生します
「2」	再生中の録音内容を繰り返し再生します
「3」	再生を中止し、次の録音内容を再生します
「4」	（なし）
「5」	再生中の録音内容を消去します
「6」	（なし）
「7」	再生中の録音内容を数秒間巻き戻して再生します
「8」	再生中の録音内容を数秒間早送りして再生します
「9」	再生中の録音内容を保存します
「0」	ボイスメールの操作ガイダンスを読み上げます
「#」「#」	再生を終了します
「ボックス」ボタンまたは「6」「1」	指定ボックスへメッセージを転送します
「*」「*」「1」	ボックス内のすべての録音内容が消去されます
「音声ファイル送信」ボタンまたは「6」「9」	録音内容つきのお知らせメールを手動で送信します

録音内容再生



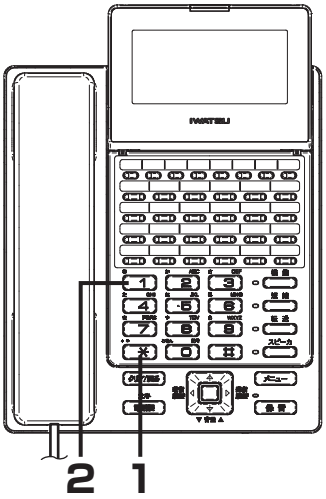
録音された内容を消去する

聞き終わった伝言を消去します。

●1件消去する

1 伝言の再生中に、「5」ボタンを押します。
再生中の伝言が消去されます。
消去すると、次の伝言の再生が始まります。次の未再生の伝言がない場合は、保存メッセージがあれば、続けて保存メッセージの再生を行います。

Note
- 消去した伝言を復活させる方法はありません。間違いのないように、慎重に操作してください。
- 未再生の伝言がなくなると、「ボックス」ボタンは消灯します。
  ※データ設定により、ボックス内の録音メッセージが0件になったときに消灯させることもできます。



●全件消去する

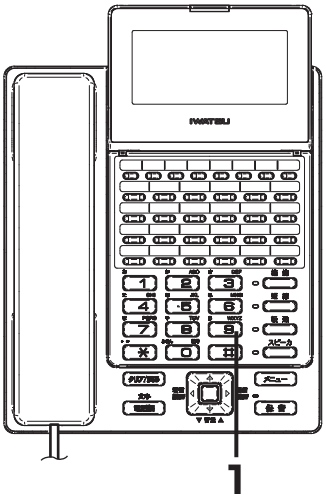
1 伝言の再生中に、「*」「*」ボタンを押します。
確認のガイダンスが流れます。

2 「1」ボタンを押します。
ボックス内のすべての伝言が消去されます。
伝言の再生は終了します。
未再生の伝言がなくなり、「ボックス」ボタンは消灯します。
※「2」ボタンを押すか、何も操作しなかった場合は、全件消去の操作はキャンセルされます。次の伝言の再生が開始されます。

Note
- 消去した伝言を復活させる方法はありません。間違いのないように、慎重に操作してください。

録音された内容を保存する

伝言を保存しておくこともできます。

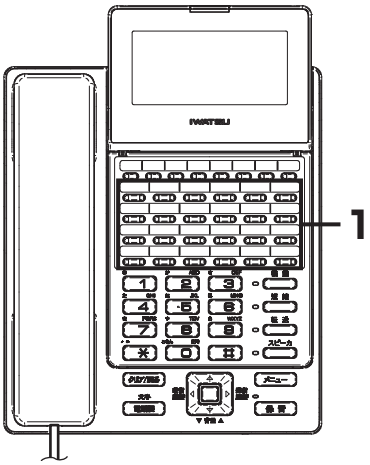


1 伝言の再生中に、「9」ボタンを押します。
再生中の伝言が保存されます。
保存すると、次の伝言の再生が始まります。次の未再生の伝言がない場合は、保存メッセージがあれば、続けて保存メッセージの再生を行います。

Note
- 保存された伝言も、既定の日数（初期値：30日）が経過すると自動的に消去するように設定することもできます。

録音された伝言を転送する〈振り分け〉

録音されている伝言を、他のボックスに転送します。
グループ留守番電話のボックスに録音されている内容を、個別留守番電話のボックスに転送することもできます。



Note

- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

1 伝言の再生中に、転送先のボックスの「ボックス」ボタンを押します。

転送先のボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点灯します。
転送すると、次の伝言の再生が始まります。次の未再生の伝言がない場合は、伝言の再生は終了します。
※「6」「1」ボタン＋転送先ボックスの番号＋「#」ボタンを押しても同じ操作ができます。
※転送の操作は、次の伝言の再生が始まる前までは可能です。

Note

- 録音されている伝言を同報ボックスに転送することもできます。同報ボックスに転送すると、設定されている同報先ボックスに転送されます。この方法は、1件の伝言を複数のボックスに転送するときに使用できます。
- 同報ボックスを使うためには、あらかじめ同報ボックスに同報先のボックスを設定しておく必要があります。
- 「同報ボックス1」～「同報ボックス60」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 転送先の同報ボックスは、「同報ボックス1」～「同報ボックス60」を使用できます。
- 転送先に無効なボックスを指定した場合や、同報先が指定されていない同報ボックスを指定した場合、ボックス番号がない旨のガイダンスが聞こえます。
- 録音メモリが満杯等で転送先のボックスに保存できない場合には、録音できない旨のガイダンスが聞こえます。
- 転送先が同報ボックスの場合で、すべての同報先ボックスで録音メモリが満杯等で転送先のボックスに伝言を保存できない場合には、録音できない旨のガイダンスが聞こえます。

再生時の暗証番号について〈再生パスワード〉

ボックスに暗証番号（再生パスワード）を設定して、ボックス使用者以外が再生することを防ぐことができます。暗証番号（再生パスワード）を設定すると、ボックスの内容を再生するときに、暗証番号（再生パスワード）の入力が必要になります。入力された暗証番号（再生パスワード）が間違っていると、ボックスの再生はキャンセルされます。

Note

- 入力した暗証番号（再生パスワード）が間違っていると、ガイダンスが流れます。ガイダンスに従って暗証番号（再生パスワード）を入力しなおしてください。なお、ガイダンスが流れている間は、入力できません。

応答メッセージ

留守番電話（グループ／個別）でボイスメールが着信に応答したときに流すメッセージです。
応答メッセージには、あらかじめボイスメールで用意している共通応答メッセージとユーザが録音できる応答メッセージとがあります。

■共通応答メッセージ
あらかじめボイスメールで用意されている共通の応答メッセージです、新たに応答メッセージが録音されていない場合は、この共通応答メッセージが流れます。

共通応答メッセージは次のとおりです。

応答メッセージ番号	種類	音声ガイダンス内容
1	応答メッセージ1	「本日の業務は終了しました。ご用件のある方はピーッという発信音のあとにメッセージをお話しください。」
2	応答メッセージ2	「ただいま、席を外しています。ご用件のある方はピーッという発信音のあとにメッセージをお話しください。」
3	応答メッセージ3	「ただいま、外出しています。ご用件のある方はピーッという発信音のあとにメッセージをお話しください。」
4	応答専用メッセージ1[注]	「ただいま、留守にしております。恐れ入りますが後ほどおかけ直しください。」
5	応答専用メッセージ2[注]	「本日の業務は、終了いたしました。恐れ入りますが、就業時間におかけ直しください。」

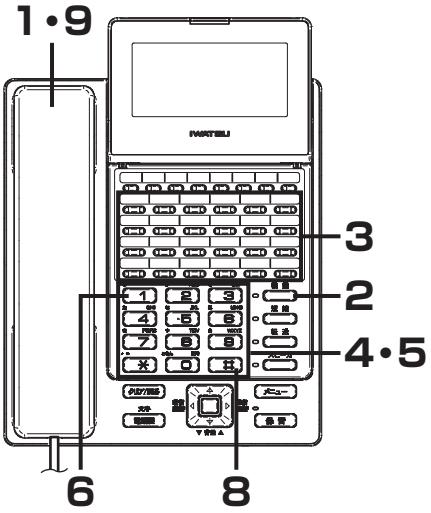
注：応答専用メッセージ1、2は応答専用です。メッセージ録音しない場合に使用するものです。

Note

- 共通応答メッセージは消去できません。同一番号に応答メッセージを録音すると、その録音内容が優先されます。しかし、録音した応答メッセージを消去すると、再び共通応答メッセージが流れます。
- ボイスメールのすべてのチャネルがビジーの場合は、応答メッセージの録音／再生／消去の操作はできません。

応答メッセージを録音する

共通応答メッセージとは別に、留守番電話（グループ／個別）でボイスメールが着信に応答したときに流すメッセージを録音することができます。



Note

- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 同報ボックスには録音できません。

1 受話器を取り上げるか「スピーカ」ボタンを押します。

2 「機能」ボタンを押します。
「機能」ボタンが赤色で点滅します。

3 応答メッセージを録音するボックスの「ボックス」ボタンを押します。
「暗証番号をダイヤルしてください。」のガイダンスが流れます。
該当のボックスボタンが赤点灯します。

4 暗証番号（設定パスワード）をダイヤルします。
「留守番応答のメッセージ番号をダイヤルしてください。」のガイダンスが流れます。

5 留守番応答のメッセージ番号（1～5）をダイヤルします。
「録音は「1」、再生は「2」、消去は「3」をダイヤルしてください。」のガイダンスが流れます。

6 「1」ボタンを押します。
「録音を開始します。ピーという発信音の後にメッセージをお話しください。録音の終了は、「#」をダイヤルしてください。」のガイダンスが流れます。
開始音（ピー）の後に録音が始まります。

7 応答メッセージを話します。

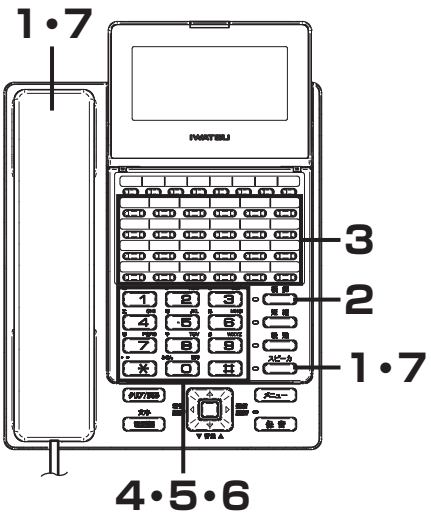
8 応答メッセージを話し終わったら、「#」ボタンを押します。
「録音を終了しました。」のガイダンスが流れます。
録音を終了した後、手順（5）のガイダンスが再度流れます。

9 受話器を置くか「スピーカ」ボタンを押します。
該当のボックスボタンが消灯します。

Note

- 入力した暗証番号（設定パスワード）が間違っていると、入力エラーのガイダンスが流れます。正しく入力しなおしてください。なお、ガイダンスが流れている間は入力できません。
- 応答メッセージの録音上限時間は2分です。それを超えると録音は中止され、その時点までの録音が保存されます。

応答メッセージ



Note

・「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

応答メッセージを再生／消去する

登録された応答メッセージを再生、消去することができます。

1 受話器を取り上げるか「スピーカ」ボタンを押します。

2 「機能」ボタンを押します。
「機能」ボタンが赤色で点滅します。

3 応答メッセージを再生または消去するボックスの「ボックス」ボタンを押します。
「暗証番号をダイヤルしてください。」のガイダンスが流れます。
該当のボックスボタンが赤点灯します。

4 暗証番号（設定パスワード）をダイヤルします。
「留守番応答のメッセージ番号をダイヤルしてください。」のガイダンスが流れます。

5 留守番応答のメッセージ番号（1～5）をダイヤルします。
「録音は「1」、再生は「2」、消去は「3」をダイヤルしてください。」のガイダンスが流れます。

6 録音されたメッセージを聞くときは「2」ボタン、消去するときは「3」ボタンを押します。

●「2」を押したときは
→録音されたメッセージが再生されます。
メッセージが再生された後、手順（5）のガイダンスが流れます。

●「3」を押したときは
→「もう一度、「3」を押すと消去します。」のガイダンスが流れるので、再度、「3」を押してください。
「メッセージを消去しました。」のガイダンスが流れ、メッセージが消去されます。メッセージが消去された後、手順（5）のガイダンスが流れます。

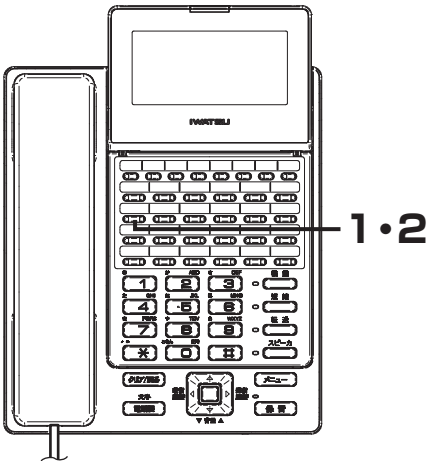
7 受話器を置くか「スピーカ」ボタンを押します。
該当のボックスボタンが消灯します。

Note

・入力した暗証番号（設定パスワード）が間違っていると、入力エラーのガイダンスが流れます。正しく入力しなおしてください。なお、ガイダンスが流れている間は入力できません。

応答メッセージを選択する

グループ留守番電話機の応答メッセージを、ユーザが録音したメッセージまたは共通応答メッセージの合計5種類のメッセージから選択できます。



1 **留守番電話グループに属する電話機で、受話器を置いたまま、「留守番」ボタンを押します。**

応答メッセージが流れます。
「留守番」ボタンが赤点灯します。

2 **希望の応答メッセージが再生されるまで、繰り返し「留守番」ボタンを押します。**

●希望の応答メッセージが再生されたら

その応答メッセージが終わるまで待ちます。
再生が終わるとメッセージが選ばれます。
再生の途中でオンフックしても選択されます。

Note

- 「留守番」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 応答メッセージの選択は、留守機能が解除されている状態で操作してください。

Note

- ボイスメールのすべてのチャネルがビジーの場合は、操作できません。
- グループ留守番電話の応答メッセージの切り替えは、その留守番電話グループに属する電話機から操作してください。
- 留守番電話グループに属する電話機から応答メッセージの切り替えを行っているときには、他の電話機から留守番電話の開始／終了の操作はできません。
- 応答メッセージの選択は、次に応答メッセージが切り替えられるまで有効です。グループ留守番電話を開始しても変化しません。
- 「メニュー」ボタンの操作でも同様の設定が行えます。（「留守録応答メッセージを選択する」（3-4ページ））

外部（外出先）から録音内容再生／録音する〈リモート〉

留守番電話に残された伝言を、外出先などから操作して聞くことができます。

録音された内容を外出先から再生する

●ボイスメールに直接着信する場合

ボイスメールに着信が行われる電話番号を発信して、ボイスメールへ直接着信させます。

Note
- 暗証番号（再生パスワード）が設定されている場合は、暗証番号（再生パスワード）の入力が必要です。

1 外出先の電話機から、ボイスメールに着信する電話番号にダイヤルします。
「メッセージの再生は「1」、伝言録音は「2」、留守録の操作は「3」、終了は「#」をダイヤルしてください。」というボイスメールのガイダンスが流れます。

2 「1」をダイヤルします。
「メッセージを再生するボックス番号をダイヤルし、最後に「#」をダイヤルしてください。」というガイダンスが流れます。

3 ガイダンスに従って、ボックス番号と「#」をダイヤルします。
「暗証番号をダイヤルしてください」のガイダンスが流れます。

4 暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。
録音されている伝言が再生されます。

5 伝言を聞きます。

6 伝言を聞き終わったら、お話しを終了します。

●ボイスメールにスライド着信する場合

Note
- ボイスメールにスライド着信する設定が必要です。
- 暗証番号（再生パスワード）が設定されている場合は、暗証番号（再生パスワード）の入力が必要です。

1 外出先の電話機から、ボイスメールにスライド着信する電話番号にダイヤルします。

2 応答メッセージが聞こえているうちに、「#」「#」をダイヤルし、続けて暗証番号（留守番応答アクセスパスワード）をダイヤルします。
「メッセージの再生は「1」、伝言録音は「2」、留守録の操作は「3」、終了は「#」をダイヤルしてください。」というボイスメールのガイダンスが流れます。

3 ガイダンスが聞こえたら、「1」をダイヤルします。
［メッセージの再生するボックス番号をダイヤルし、最後に「#」をダイヤルしてください。］というガイダンスが流れます。

4 ガイダンスに従って、ボックス番号と「#」をダイヤルします。
「暗証番号をダイヤルしてください」のガイダンスが流れます。

5 暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。
録音されている伝言が再生されます。

6 伝言を聞きます。

7 伝言を聞き終わったら、お話しを終了します。

●留守番電話が応答する場合

Note
- 暗証番号（再生パスワード）が設定されている場合は、暗証番号（再生パスワード）の入力が必要です。

1 **外出先の電話機から、留守番電話に着信する電話番号にダイヤルします。**
応答メッセージが流れます。

2 **応答メッセージが聞こえているうちに、「#」「#」をダイヤルし、続けて暗証番号（留守番応答アクセスパスワード）をダイヤルします。**
「メッセージの再生は「1」、伝言録音は「2」、留守録の操作は「3」、終了は「#」をダイヤルしてください。」というボイスメールのガイダンスが流れます。

3 **ガイダンスが聞こえたら「1」をダイヤルします。**
「メッセージを再生するボックス番号をダイヤルし、最後に「#」をダイヤルしてください。」というガイダンスが流れます。

4 **ガイダンスに従って、ボックス番号と「#」をダイヤルします。**
「暗証番号をダイヤルしてください」のガイダンスが流れます。

5 **暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。**
録音されている伝言が再生されます。

6 **伝言を聞きます。**

7 **伝言を聞き終わったら、お話しを終了します。**

●ボイスメールからの呼び出しに応答する場合

Note
- ガイダンスが流れた後に規定時間何も操作しないと、自動的に通話は切断されます。
- DISA外線からボイスメールの内線代表番号をダイヤルすると、ボイスメールを直接呼び出せます。
- 外線からの操作は、プッシュ信号で送られます。プッシュ信号を送出できない電話機からは操作できません。

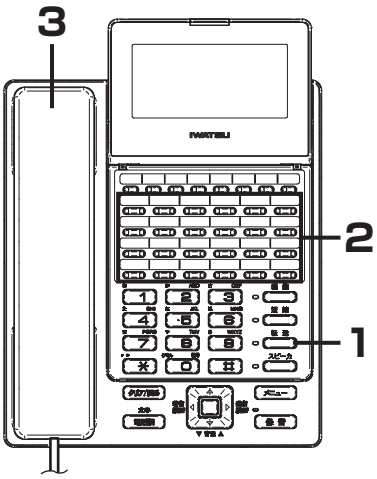
1 **外出先の電話機で着信したボイスメールからの呼び出しに応答します。**
「この電話は伝言センターからおかけしています。」というガイダンスが流れます。

2 **ボックスの暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。**
録音されている伝言が再生されます。

3 **伝言を聞きます。**

4 **伝言を聞き終わったら、お話しを終了します。**

外部（外出先）から録音内容再生／録音する〈リモート〉



録音された内容を外出先から再生する〈取次再生〉

留守番電話に残された伝言を、内線電話を操作してもらって聞くことができます。

●内線電話機での操作

外線からの着信に応答します。

1 外線とお話し中に、「転送」ボタンを押します。
［転送］ボタンが点滅し、「ププププ」という第2発信音が聞こえます。

2 「ボックス」ボタンを押します。
※個別ボックス・留守番グループボックスがご利用になれます。

3 操作を促すガイダンスが聞こえたら、受話器を置きます。
お話し中の外線をボイスメールに接続します。

Note

- 内線電話機での取り次ぎ操作時に、ボイスメールのチャネルが話中の場合、受話器を戻すとキャンプオン（呼び出し待ち）状態になります。また、「転送」ボタンを押すと、外線とお話しできます。

●外部の電話機での操作

1 ボイスメールに接続されたら、ガイダンスに従って、暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。

2 ガイダンスに従って操作を行います。
録音されている伝言が再生されます。

3 伝言を聞きます。

4 伝言を聞き終わったら、お話しを終了します。

Note

- 外線からの操作は、プッシュ信号で送られます。プッシュ信号を送出できない電話機からは操作できません。

外出先から留守番電話をオン／オフする

留守番電話をセットし忘れたときなど、外出先から留守番電話機能をオン／オフすることができます。
また、伝言の録音先ボックスを変更することもできます。

●留守番電話をオン（開始）する

Note
- 外線からの操作は、プッシュ信号で送られます。プッシュ信号を送出できない電話機からは操作できません。

1 外出先の電話機から、ボイスメールにスライド着信する電話番号にダイヤルします。

2 応答メッセージが聞こえているうちに、「#」「#」をダイヤルし、続けて暗証番号（留守番応答アクセスパスワード）をダイヤルします。
「メッセージの再生は「1」、伝言録音は「2」、留守録の操作は「3」、終了は「#」をダイヤルしてください。」というボイスメールのガイダンスが流れます。

3 ガイダンスが聞こえたら、「3」をダイヤルします。
「留守番の操作を開始します。ボックス番号をダイヤルし、最後に「#」をダイヤルしてください」というガイダンスが流れます。

4 ガイダンスが聞こえたら、ボックス番号と「#」をダイヤルします。
「暗証番号をダイヤルしてください」というガイダンスが流れます。
※ボックス番号には、留守番グループボックス番号を指定する必要があります。

5 ガイダンスが聞こえたら、暗証番号（設定パスワード）をダイヤルします。
「メッセージ番号をダイヤルしてください。」というガイダンスが流れます。

6 ガイダンスが聞こえたら、留守番応答のメッセージ番号（1～5）をダイヤルします。

7 応答メッセージが聞こえたら、お話しを終了します。
※お話しを終了しないでいると、再び手順（2）のリモート操作ガイダンスが流れます。
この状態で、引き続き、伝言の再生等の操作を行うことができます。

Note
- ボックス番号はお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 入力したボックス番号がエラーの場合、ガイダンスが流れます。ガイダンスが流れている間は、何も入力できません。
- お買い求め時の暗証番号（設定パスワード）は1111が設定されています。詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

外部（外出先）から録音内容再生／録音する〈リモート〉

Note
- 外線からの操作は、プッシュ信号で送られます。プッシュ信号を送出できない電話機からは操作できません。

●留守番電話をオフ（解除）する

1 外出先の電話機から、留守番電話に着信する電話番号にダイヤルします。

2 応答メッセージが聞こえているうちに、「#」「#」をダイヤルし、続けて暗証番号（留守番応答アクセスパスワード）をダイヤルします。
「メッセージの再生は「1」、伝言録音は「2」、留守録の操作は「3」、終了は「#」をダイヤルしてください。」というボイスメールのガイダンスが流れます。

3 ガイダンスが聞こえたら、「3」をダイヤルします。留守録の操作を開始します。
「留守録の操作を開始します。ボックス番号をダイヤルし、最後に「#」をダイヤルしてください。」というガイダンスが流れます。

4 ガイダンスが聞こえたら、ボックス番号と「#」をダイヤルします。
「暗証番号をダイヤルしてください。」というガイダンスが流れます。

5 ガイダンスが聞こえたら、暗証番号（設定パスワード）をダイヤルします。
「メッセージ番号をダイヤルしてください。」というガイダンスが流れます。

6 ガイダンスが聞こえたら、「0」をダイヤルします。
「解除しました。」というガイダンスが流れます。

7 ガイダンスが聞こえたら、お話しを終了します。

Note
- ボックス番号は、お買い求めの販売店にご確認ください。
- グループ留守番電話機能がオフの状態でも、着信に一定時間応答しないときは、自動的に留守番電話に着信するように設定されている必要があります。
- お買い求め時の暗証番号（留守番応答アクセスパスワード）は0852が設定されています。詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- お買い求め時の暗証番号（設定パスワード）は1111が設定されています。詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- すでに留守番電話機機能がオンに設定されているときに、上記の手順（6）で「0」の代わりに、留守番応答のメッセージ番号（1～5）を押すと、応答メッセージを切り替えることができます。

外出先から伝言を録音する〈リモート伝言録音〉

Note
- 外線からの操作は、プッシュ信号で送られます。プッシュ信号を送出できない電話機からは操作できません。

1 外出先の電話機から、ボイスメールにスライド着信する電話番号にダイヤルします。

2 応答メッセージが聞こえているうちに、「#」「#」をダイヤルし、続けて暗証番号（留守番応答アクセスパスワード）をダイヤルします。
「メッセージの再生は「1」、伝言録音は「2」、留守録の操作は「3」、終了は「#」をダイヤルしてください。」というボイスメールのガイダンスが流れます。

3 ガイダンスが聞こえたら、「2」をダイヤルします。

4 録音先のボックス番号と「#」をダイヤルします。

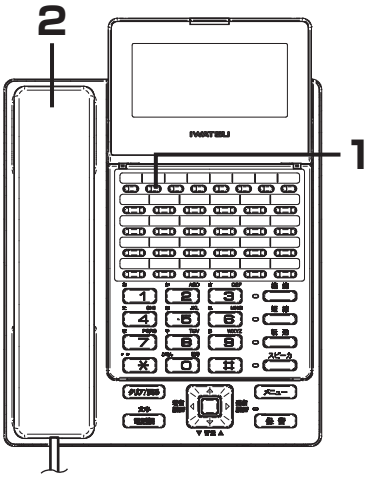
5 メッセージを話します。
※録音の終了は、「#」をダイヤルしてください。もう一度録音する場合は、「*」をダイヤルしてください。

6 お話しを終了します。

Note
- 入力したボックス番号がエラーの場合、ガイダンスが流れます。ガイダンスが流れている間は、何も入力できません。
- グループ留守番電話機能がオフの状態でも、着信に一定時間応答しないときは、自動的に留守番電話に着信するように設定されている必要があります。

通話録音（発信／着信）

外線通話を録音して、メッセージボックスに保存しておくことができます。
録音は、お話し中のいつでも開始できます。



Note

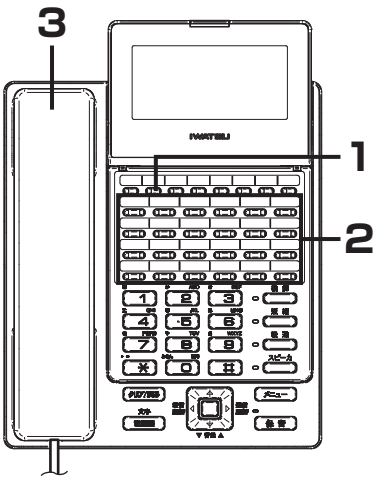
- データ設定により、通話録音を開始するときの録音開始音の有無を設定することができます。詳しくはお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 「通話録音」ボタン、「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

お話しを手動で録音する

●録音先ボックスが自動指定されている場合
録音内容は、自動的に自ボックスに保存されます。
通話中に他の「ボックス」ボタンを押すと、そのボックスに保存されます。（「録音した通話の保存先を変更する」（3-50ページ））

1 お話し中に、「通話録音」ボタンを押します。
録音が開始され、「通話録音」ボタンと保存先ボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点滅します。
※お話し中に録音をいったん終了するときには、点滅している「ボックス」ボタンを押します。再び「通話録音」ボタンを押すと、新たに通話録音が開始されます。

2 お話しが終了したら、受話器を置きます。
録音は自動的に終了し、「通話録音」ボタンが消灯します。また、保存先ボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点灯します。
録音した通話は、点灯しているボックスに保存されています。



Note

- 「通話録音」ボタン、「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- データ設定により、通話録音を開始するときの録音開始音の有無を設定することができます。詳しくはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

●録音先ボックスが自動指定されていない場合

通話録音終了時、保存先ボックスの「ボックス」ボタンを押さないと録音内容は保存されません。

1 お話し中に、「通話録音」ボタンを押します。

録音が開始され、「通話録音」ボタンが赤色に点滅します。

2 通話録音中に、保存先ボックスの「ボックス」ボタンを押します。

保存先ボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点滅します。

※保存先ボックスの［ボックス］ボタンを押さずに受話器を置いた場合、録音内容は消去されます。

※お話し中に録音をいったん終了するときには、点滅している「ボックス」ボタンを押します。再び「通話録音」ボタンを押すと、新たに通話録音が開始されます。

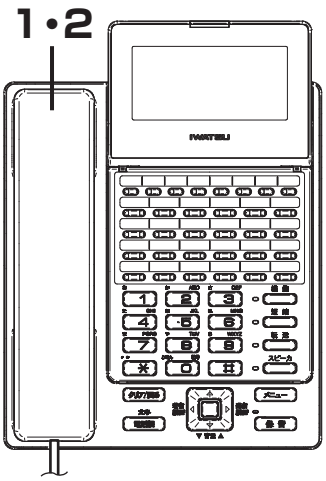
3 お話しが終了したら、受話器を置きます。

録音内容がボックスに保存され、「通話録音」ボタンが消灯します。
また、保存先ボックスの「ボックス」ボタンは赤色に点灯します。
録音した通話は、点灯しているボックスに保存されています。

Note

- 受話器を戻してお話しを終了したとき、または「ボックス」ボタンを押したとき以外に、次の場合に通話録音は終了します。
  （その時点までの通話は、「ボックス」ボタンに録音されています。）
  - お話しが切断されたとき
  - お話しを保留したとき
    ※あらかじめ設定により、保留操作時通話録音を一時停止させることもできます。
    ※保留後、再び通話録音する場合、再度「通話録音」ボタンを押します。保留前の録音とは別に保存されます。
  - 録音可能時間に達したとき（録音終了音が聞こえます）
    ※録音開始音・終了音の有無はデータ設定に依存します。
  - 録音メモリ残量がなくなったとき（録音終了音が聞こえます）
- 次の場合は、通話録音できません。
  - 録音するボックスの録音件数が999件に達している
  - 録音するボックスの録音メモリ残量が不足している
  - 内線とお話し中の場合
  - 4者会議通話中の場合
  - 録音通話チャネルがすべて使用中の場合
- 録音した通話を再生するときは、「録音された内容を再生する」(3-33ページ)を参照してください。
- 通話録音中に、録音先のボックスを変更することもできます。(「録音した通話の保存先を変更する」(3-50ページ))
- 録音した通話を他のボックスに転送することもできます。(「通話録音された内容を転送する〈振り分け〉」(3-53ページ))
- 通話中に録音を中止し、それまでに録音された通話を消去することもできます。(「通話録音を中止する」(3-50ページ))

通話録音（発信／着信）



Note

- 「通話録音」ボタン、「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- データ設定により、あらかじめ電話機ごとにボックスキーのランプ点灯条件を登録することができます。
  (1)新着メッセージがある場合
  (2)新着メッセージまたは既読メッセージがある場合

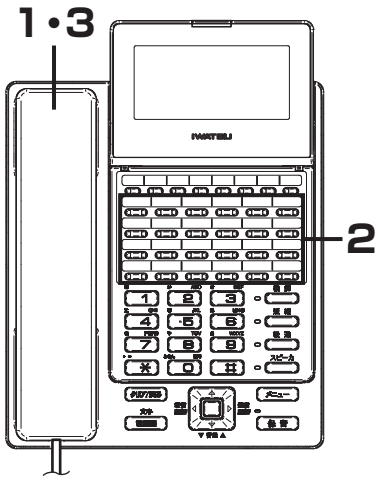
お話しを自動で録音する

外線通話を録音して、メッセージボックスに保存しておくことができます。
録音は、かかってきた電話に応答するだけで、自動的に開始できます。

●録音先ボックスが自動指定されている場合
録音内容は、自動的に自ボックスに保存されます。
通話中に他の保存先ボックスの「ボックス」ボタンを押すとそのボックスに保存されます。(「録音した通話の保存先を変更する」(3-50ページ))

1 着信中に、受話器を取り上げます。
録音が開始され、「通話録音」ボタンと保存先ボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点滅します。
※お話し中に録音をいったん終了するときには、点滅している「ボックス」ボタンを押します。再び「通話録音」ボタンを押すと、新たに通話録音が開始されます。

2 お話しが終了したら、受話器を置きます。
録音は自動的に終了し、「通話録音」ボタンが消灯します。また、保存先ボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点灯します。
録音した通話は、点灯しているボックスに保存されています。



Note

- 「通話録音」ボタン、「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- データ設定により、通話録音を開始するときの録音開始音の有無を設定することができます。詳しくはお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- データ設定により、システムが局線着信に自動応答して、相手先に対して通話が録音される旨のガイダンスを流すことができます。
- データ設定により、あらかじめ電話機ごとに、着信時・発信時・保留応答時に自動通話録音をするか登録することができます。

●録音先ボックスが自動指定されていない場合

通話録音終了時、保存先ボックスの「ボックス」ボタンを押さないと録音内容は保存されません。

1 着信中に、受話器を取り上げます。

録音が開始され、「通話録音」ボタンが赤色に点滅します。

2 通話録音中に、保存先ボックスの「ボックス」ボタンを押します。

保存先ボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点滅します。

※保存先ボックスの［ボックス］ボタンを押さずに受話器を置いた場合、録音内容は消去されます。

※お話し中に録音をいったん終了するときには、点滅している「ボックス」ボタンを押します。再び「通話録音」ボタンを押すと、新たに通話録音が開始されます。

3 お話しが終了したら、受話器を置きます。

録音内容がボックスに保存され、「通話録音」ボタンが消灯します。
また、保存先ボックスの「ボックス」ボタンは赤色に点灯します。
録音した通話は、点灯しているボックスに保存されています。

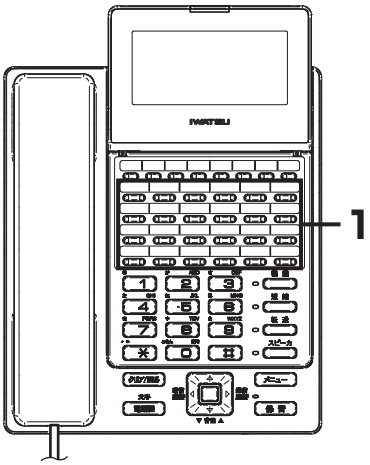
Note

- 受話器を戻してお話しを終了したとき、または「ボックス」ボタンを押したとき以外に、次の場合に通話録音は終了します。
  （その時点までの通話は、「ボックス」ボタンに録音されています。）
  - お話しが切断されたとき
  - お話しを保留したとき
    ※あらかじめ設定により、保留操作時通話録音を一時停止させることもできます。
    ※保留後、再び通話録音する場合、再度「通話録音」ボタンを押します。保留前の録音とは別に保存されます。
  - 録音可能時間に達したとき（録音終了音が聞こえます）
    ※録音開始音・終了音の有無はデータ設定に依存します。
  - 録音メモリ残量がなくなったとき（録音終了音が聞こえます）
- 次の場合は、通話録音できません。
  - 録音するボックスの録音件数が999件に達している
  - 録音するボックスの録音メモリ残量が不足している
  - 内線とお話し中の場合
  - 4者会議通話中の場合
  - 録音通話チャネルがすべて使用中の場合
- 録音した通話を再生するときは、「録音された内容を再生する」(3-33ページ)を参照してください。
- 通話録音中に、録音先のボックスを変更することもできます。（「録音した通話の保存先を変更する」(3-50ページ)）
- 録音した通話を他のボックスに転送することもできます。（「通話録音された内容を転送する〈振り分け〉」(3-53ページ)）
- 通話中に録音を中止し、それまでに録音された通話を消去することもできます。（「通話録音を中止する」(3-50ページ)）

通話録音（発信／着信）

録音した通話の保存先を変更する

必要に応じて、通話の録音を保存するボックスを変更できます。
通常、通話の録音は、ご使用の電話機に対応したボックスに保存されます。



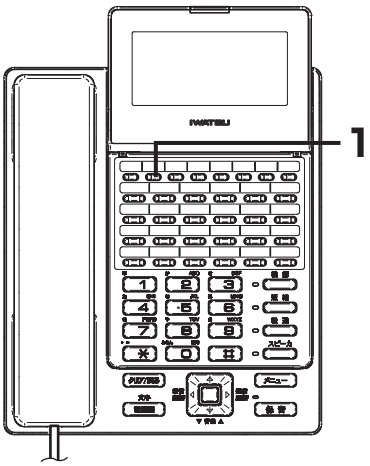
1 **通話録音中に、保存先ボックスの「ボックス」ボタンを押します。**
保存先を変更すると、始めに保存先に指定されていたボックスは消灯し、新たに保存先として指定したボックスが赤色に点滅します。

Note

- 保存先のボックスは、通話録音中に何回でも変更できます。通話の録音は、複数回変更した場合には、最後に押した「ボックス」ボタンのボックスに保存されます。
- 保存先を同報ボックスにすることもできます。
- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 録音メモリ残量の不足等で指定したボックス（同報ボックスを含む）に保存できない場合、通話の録音はご使用の電話機用のボックスに保存されます。

通話録音を中止する

録音が不要な通話だった場合には、録音を中止できます。
中止すると、それまでの録音は消去されます。



1 **通話録音中に、「通話録音」ボタンを押します。**
録音が中止され、「通話録音」ボタン、「ボックス」ボタンが消灯します。

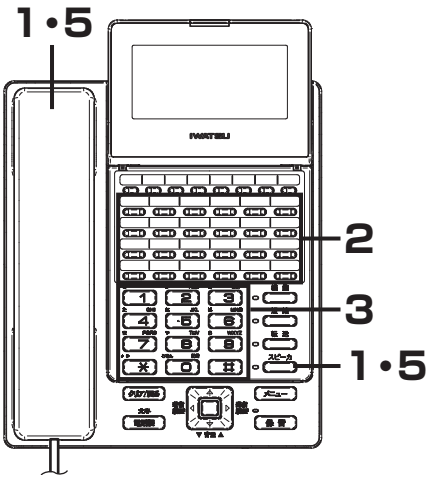
Note

- 通話録音を中止した後、再び「通話録音」を押すと、新たに通話録音が開始できます。（「お話しを手動で録音する」（3-46ページ）、「お話しを自動で録音する」（3-48ページ））

Note

- 「通話録音」ボタン、「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

通話録音の再生



Note

- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 同報ボックスは再生できません。
- 未再生の通話がなくなると、「ボックス」ボタンは消灯します。
- 発信者番号が通知された相手からの通話が録音された場合は、録音内容の再生中に、発信者番号をディスプレイに表示します。また、発信者番号が電話帳に登録されている場合は、電話帳に登録している登録名称も表示します。
- 単独電話機の場合、内線ダイヤルトーンからボイスメールアクセス番号をダイヤルし、ボイスメールの音声案内に従って行ってください。

通話録音された内容を再生する

通話録音の内容を聞きます。
聞いていない録音内容があるときには、そのボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点灯します。

1 受話器を取り上げるか「スピーカ」ボタンを押します。

2 録音内容を聞くボックスの「ボックス」ボタンを押します。
該当のボックスボタンが赤点灯します。

3 ボックスの暗証番号（再生パスワード）をダイヤルします。
ボックスに暗証番号（再生パスワード）が設定されている場合は、「暗証番号をダイヤルしてください」というガイダンスに従って、暗証番号（再生パスワード）を入力してください。
※録音されている録音内容が再生されます。

4 録音内容を聞きます。
先頭の録音内容を再生する前に、未再生の録音件数がアナウンスされます。
※複数の通話が録音されている場合は、連続して再生されます。
※再生中の操作については、「通話録音内容再生中の操作一覧」（下記）を参照してください。

5 録音内容を聞き終わったら、受話器を置くか「スピーカ」ボタンを押します。
すべての通話を再生し終わり未再生の録音がなくなると、「ボックス」ボタンは消灯します。

Note

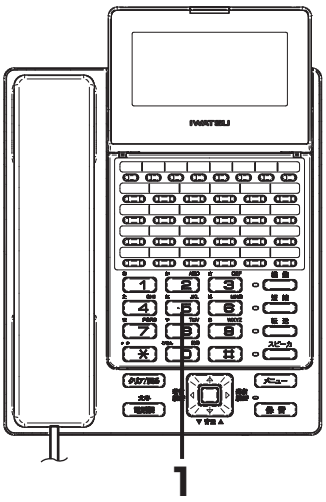
- あらかじめデータ設定により、ボックス内の録音メッセージが0件になったときに消灯させ、録音メッセージがあるときに点灯させることもできます。

■通話録音内容再生中の操作一覧

通話録音内容再生中には、次の操作を行えます。

ダイヤル	再生中機能
「1」	複数の録音内容がある場合、1つ前の録音内容を再生します
「2」	再生中の録音内容を繰り返し再生します
「3」	再生を中止し、次の録音内容を再生します
「4」	（なし）
「5」	再生中の録音内容を消去します
「6」	（なし）
「7」	再生中の録音内容を数秒間巻き戻して再生します
「8」	再生中の録音内容を数秒間早送りして再生します
「9」	再生中の録音内容を保存します
「0」	ボイスメールの操作ガイダンスを読み上げます
「#」「#」	再生を終了します
「ボックス」ボタンまたは「6」「1」	指定ボックスへメッセージを転送します
「*」「*」「1」	ボックス内のすべての録音内容が消去されます
「音声ファイル送信」ボタンまたは「6」「9」	録音内容つきのお知らせメールを手動で送信します

通話録音の再生



通話録音された内容を消去する

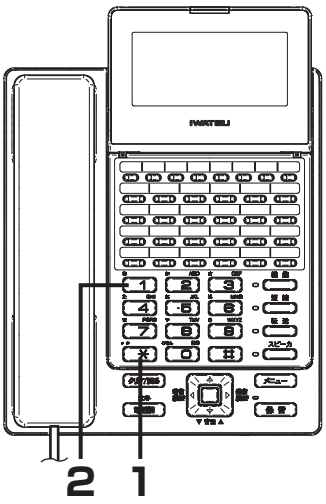
聞き終わった録音内容を消去します。

●1件消去する

1 **通話録音の再生中に、「5」ボタンを押します。**
再生中の録音内容が消去されます。
消去すると、次の録音内容の再生が始まります。次の未再生の録音がない場合は、保存メッセージがあれば、続けて保存メッセージの再生を行います。

Note

- 消去した録音内容を復活させる方法はありません。間違いのないように、慎重に操作してください。
- 未再生の録音内容がなくなると、「ボックス」ボタンは消灯します。
  ※データ設定により、ボックス内の録音メッセージが0件になったときに消灯させることもできます。



●全件消去する

1 **通話録音の再生中に、「*」「*」ボタンを押します。**
確認のガイダンスが流れます。

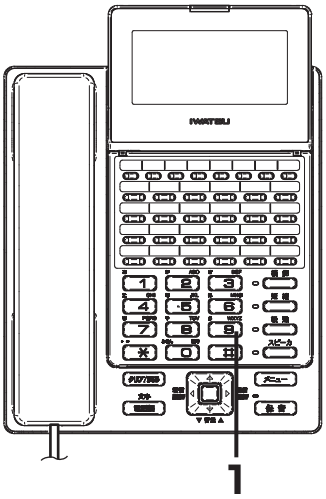
2 **「1」ボタンを押します。**
ボックス内のすべての録音内容が消去されます。
録音の再生は終了します。
未再生の録音内容がなくなると、「ボックス」ボタンは消灯します。
※「2」ボタンを押すか、何も操作しなかった場合は、全件消去の操作はキャンセルされます。次の録音内容の再生が開始されます。

Note

- 消去した録音内容を復活させる方法はありません。間違いのないように、慎重に操作してください。

通話録音された内容を保存する

録音内容を保存しておくこともできます。



1 通話録音の再生中に、「9」ボタンを押します。

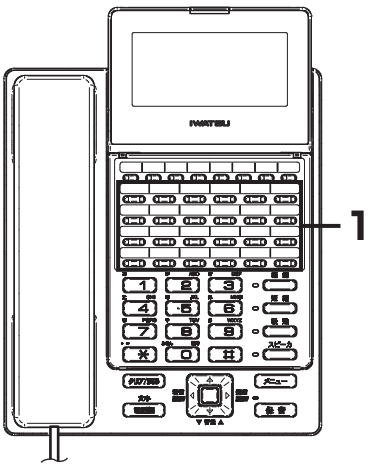
再生中の録音内容が保存されます。
保存すると、次の録音内容の再生が始まります。次の未再生の録音内容がない場合は、保存メッセージがあれば、続けて保存メッセージの再生を行います。

Note

- 保存された録音内容も、既定の日数（初期値：30日）が経過すると自動的に消去するように設定することができます。

通話録音された内容を転送する〈振り分け〉

録音されている内容を、他のボックスに転送します。
グループ留守番電話のボックスに録音されている内容を、個別留守番電話のボックスに転送することもできます。



1 通話録音の再生中に、転送先のボックスの「ボックス」ボタンを押します。

転送先のボックスの「ボックス」ボタンが赤色に点灯します。
転送すると、次の録音内容の再生が始まります。未再生の録音内容がない場合は、再生済みの録音内容を再生します。
※「6」「1」ボタン＋転送先ボックスの番号＋「#」ボタンを押しても同じ操作ができます。
※転送の操作は、次の録音内容の再生が始まる前までは可能です。

Note

- 「ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

Note

- 録音されている内容を同報ボックスに転送することもできます。同報ボックスに転送すると、設定されている同報先ボックスに転送されます。この方法は、1件の録音内容を複数のボックスに転送するときに使用できます。
- 同報ボックスを使うためには、あらかじめ同報ボックスに同報先のボックスを設定しておく必要があります。
- 「同報ボックス1」～「同報ボックス60」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 転送先の同報ボックスは、「同報ボックス1」～「同報ボックス60」を使用できます。
- 転送先に無効なボックスを指定した場合や、同報先が指定されていない同報ボックスを指定した場合、ボックス番号がない旨のガイダンスが聞こえます。
- 録音メモリが満杯等で転送先のボックスに保存できない場合には、録音できない旨のガイダンスが聞こえます。
- 転送先が同報ボックスの場合で、すべての同報先ボックスで録音メモリが満杯等で転送先のボックスに伝言を保存できない場合には、録音できない旨のガイダンスが聞こえます。
- 転送先のボックスに同報ボックスを指定した場合、同報ボックスボタンは点灯せず、同報ボックスに所属しているボックスボタンが点灯します。

通話録音の再生

再生時の暗証番号について〈再生パスワード〉

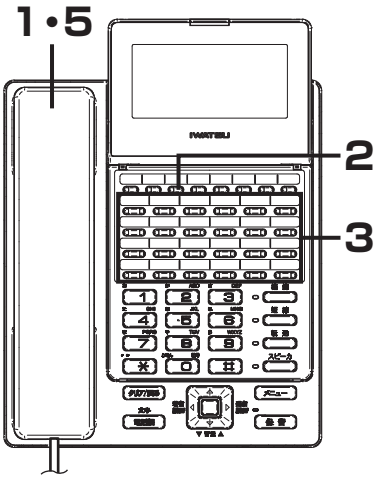
ボックスに暗証番号（再生パスワード）を設定して、ボックス使用者以外が再生することを防ぐことができます。暗証番号（再生パスワード）を設定すると、ボックスの内容を再生するときに、暗証番号（再生パスワード）の入力が必要になります。入力された暗証番号（再生パスワード）が間違っていると、ボックスの再生はキャンセルされます。

Note

- 入力した暗証番号（再生パスワード）が間違っていると、ガイダンスが流れます。ガイダンスに従って暗証番号（再生パスワード）を入力しなおしてください。なお、ガイダンスが流れている間は、入力できません。

伝言録音機能

指定したボックスにメッセージを録音できます。
また、同報ボックスに録音すると、メッセージは、その同報ボックスの宛先として設定されているボックスのすべてに保存されます。
同報ボックスは、同一のメッセージを複数のボックスに録音したいときに便利です。



Note

- 「伝言録音」ボタン、「ボックス」ボタン、「同報ボックス」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

メッセージを指定ボックス／同報ボックスに録音する〈伝言録音／同報録音〉

1 受話器を取り上げます。

2 「伝言録音」ボタンを押します。
“メールボックスNo.”と表示されます。

3 伝言を保存するボックスの「ボックス」ボタンを押します。
「伝言録音」ボタンが赤色に点滅します。
※メッセージを同報する場合は、「同報ボックス」ボタンを押します。
※「ボックス」ボタンのかわりに、ボックス番号＋「#」ボタンを押しても同じ操作ができます。

4 メッセージを話します。

5 受話器を置きます。
録音は自動的に終了し、「伝言録音」ボタンが消灯します。また、保存先ボックスの「ボックス」ボタンは赤色に点滅します。
録音したメッセージは、点灯しているボックスに保存されています。

Note

- メッセージの録音中は、録音先のボックスを変更できません。
- 同報ボックスを使うためには、あらかじめ同報ボックスに同報先のボックスを設定しておく必要があります。
- 録音中に録音メモリ残量がなくなったときには、その時点でメッセージ録音を終了します。それまでのメッセージは録音されています。
- 録音した通話を再生するときは、「録音された内容を再生する」(3-33ページ)を参照してください。
- 保存先に同報ボックスを指定した場合、同報ボックスボタンは点灯せず、同報ボックスに所属しているボックスボタンが点灯します。

録音お知らせメール

留守番録音、通話録音、伝言録音によりメッセージが録音されると、自動的に携帯電話等にメールが送信されますので、外出先等で自分宛てのメッセージがあることを知ることができます。

録音お知らせメールを送信する

留守番録音、通話録音、伝言録音によりメッセージが録音されると自動でお知らせメールを送信することができます。

Note

- あらかじめデータ設定が必要です。

録音内容を添付したお知らせメールを送信する

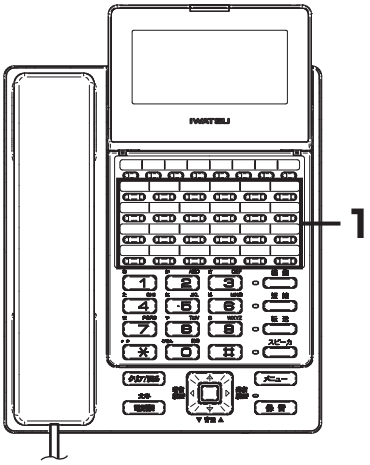
●録音内容つきのお知らせメールを自動で送信する

留守番録音、通話録音、伝言録音によりメッセージが録音されると自動で録音内容を添付してメール送信することができます。

Note

- あらかじめデータ設定が必要です。
- 録音内容を添付しないで自動でお知らせメールを送信することもできます。あらかじめデータ設定が必要です。

●録音内容つきのお知らせメールを手動で送信する



1 録音内容の再生中に、「音声ファイル送信」ボタン（または「6」「9」ボタン）を押します。

Note

- 「音声ファイル送信」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

録音お知らせメールを受信する

1 携帯電話等でEメールを開きます。

2 次の内容を知ることができます。

●留守番録音・通話録音の場合（携帯電話の表示例）

件名：　録音お知らせメール 留守番録音
本文：

メールBOX3001に留守番録音が入っています。
岩崎通信機 ← 電話帳に登録された発信者名称
03＊＊＊＊4567 ← 発信者番号
11月30日10時00分 ← 録音日時
・録音時間：1分10秒
・アクセス先
　03＊＊＊＊5678 ← 折り返し電話番号1
　03＊＊＊＊5687 ← 折り返し電話番号2
http://www.xxxxxx.co.jp/keitaiweb/index.html ← ケータイWebリンク機能のアクセス先URL
・新着：計10件 ← メール送付時点での未読件数
2018年度目標：お客様が笑顔になるような対応を心がけよう ← コメント

Note
・アクセス先・コメントはあらかじめデータ設定が必要です。

●伝言録音の場合（携帯電話の表示例）

件名：録音お知らせメール 伝言録音
本文：

メールBOX3001に伝言録音が入っています。
11月30日10時00分 ← 録音日時
・録音時間：1分10秒
・アクセス先
　03＊＊＊＊5678 ← 折り返し電話番号1
　03＊＊＊＊5687 ← 折り返し電話番号2
http://www.xxxxxx.co.jp/keitaiweb/index.html ← ケータイWebリンク機能のアクセス先URL
・新着：計10件 ← メール送付時点での未読件数
2018年度目標：お客様が笑顔になるような対応を心がけよう ← コメント

Note
・アクセス先・コメントはあらかじめデータ設定が必要です。

録音お知らせメール

音声ファイルを再生する

1 パソコン等でEメールの“録音お知らせメール”を開き、添付ファイルをクリックします。

Note

- 録音お知らせメールに添付された音声ファイルを再生するには、あらかじめアプリケーション（FR音声ファイル変換ツール）のインストールが必要です。詳しくは「FR音声ファイル変換ツール取扱説明書」をご覧ください。
- スマートホンや携帯電話での音声ファイル再生機能のご利用はできません。

4.メッセージ
機能編

音声案内

外線や内線からかかってきた電話に対し、音声による案内サービスができます。

音声案内サービス概要

利用できる音声案内サービスは次のとおりです。（固定メッセージ例）

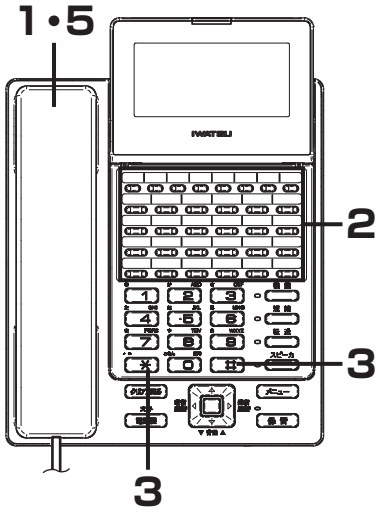
- ●接続案内サービス
- ●ダイレクトインワードサービスアクセス
- ●外線への自動応答メッセージ
- ●モーニングコール
- ●転送電話の応答メッセージ
- ●着信呼均等分配（ACD）／着信お待たせメッセージ
- ●迷惑電話防止の断りメッセージ
- ●音声応答自動振分機能（IVR）

番号	状　態	メッセージ
01	案内サービス	可変メッセージのみ
02	DISA	こちらは、ダイレクトインサービスです。おかけの電話機が、プッシュホンでしたら発信音の後に、内線番号をダイヤルしてください。
03		こちらは、ダイレクトインサービスです。おかけの電話機が、プッシュホンでしたら発信音の後に、内線番号をダイヤルしてください。ただしコレクトコールではお呼び出しできません。
－	IVR呼出失敗	おつなぎできませんでした。
05	DISA	ピー（発信音）
06～09	局線自動応答1	本日の業務は、終了いたしました。恐れ入りますが、就業時間におかけ直しください。
10～13	局線自動応答2	恐れ入りますが本日は、定休日となっています。
14～17	転送電話	転送電話です。
18	話中音	ただいまお話し中です。
19	警告音	おかけになった番号は、使われておりません。
20	ドントディスターブ	ただいまお呼び出しできません。
21	不在メッセージ	ただいま不在のため、お呼び出しできません。
22	モーニングコール	こちらは、モーニングコールサービスです。24時間制で時刻をダイヤルしてください。
23	モーニングコール応答	こちらは、モーニングコールサービスです。お時間になりました。
31	着信呼均等分配（ACD）初回	ただいま呼び出しを行っていますので、恐れ入りますがそのままの状態でしばらくお待ちください。
32	着信呼均等分配（ACD）2回目以降	お待たせして申し訳ございませんが、もうしばらくお待ちください。
34	モーニングコールキャンセル	モーニングコールサービスの時刻をキャンセルいたしました。
－	IVR未定義操作	番号が違います。
－	IVRサービス提供不可	このサービスは、ご利用になれません。
－	IVR強制終了	終了しました。
45	迷惑電話防止（電話番号登録型）	おかけになった電話番号への通話は、おつなぎできません。ご了承ください。
46	迷惑電話防止（番号非通知型）	恐れ入りますが、電話番号の先頭に186とつけてダイヤルするなど、あなたの電話番号を通知しておかけ直しください。
47	迷惑電話防止（公衆／表示圏外型）	恐れ入りますが、電話番号が通知されていないため、この電話はお受けできません。電話番号が通知される電話からおかけ直しください。
－	IVR呼出開始	ただいま呼び出しを行っていますので、恐れ入りますがそのままの状態でしばらくお待ちください。

Note

- 音声案内サービス機能を使用するためには、機能ライセンスが必要です。
- 音声応答自動振分機能（IVR）のメッセージ番号は、あらかじめ設定が必要です。お買い求めの販売店にお問い合わせください。
  また、音声応答自動振分機能（IVR）メッセージの再生、録音、消去方法については、「5.音声応答自動振分機能（IVR）編」（5-1ページ）を参照してください。

固定メッセージの再生



1 受話器を取り上げます。

2 「音声案内録音」ボタンを押します。

3 メッセージ番号の入力ガイダンスが流れたら、「#」「*」ボタンを押します。

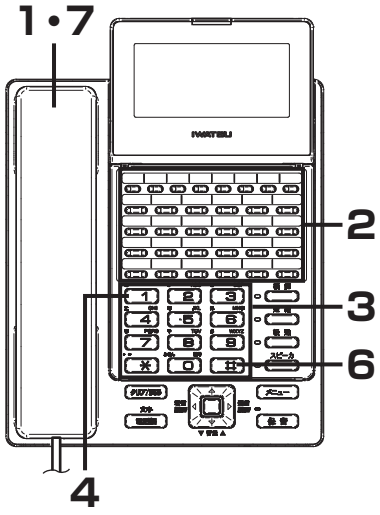
4 登録されている内容が聞こえます。

5 メッセージの再生終了後、受話器を置きます。

Note

- 「音声案内録音」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。
- 固定メッセージは、システムにあらかじめ登録してある音声案内です。

可変メッセージの録音



1 受話器を取り上げます。

2 「音声案内録音」ボタンを押します。

3 メッセージ番号（01～50）を押します。

4 「1」ボタンを押します。

5 録音するメッセージを120秒以内で話します。

6 録音を終わらせるために「#」ボタンを押します。

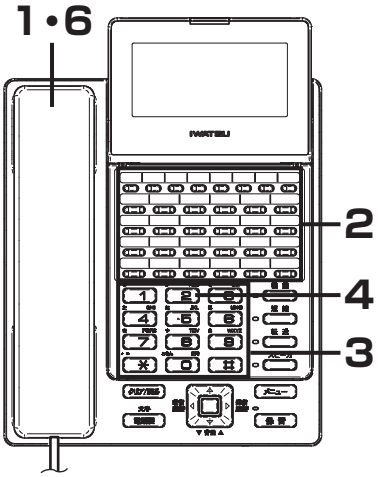
7 受話器を置きます。

Note

- すでにメッセージ登録されている場合、上書きして登録されます。
- メッセージは何度でも吹き替えることができます。
- 「音声案内録音」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

音声案内

可変メッセージの再生



Note

・「音声案内録音」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

●可変メッセージの再生方法

1 受話器を取り上げます。

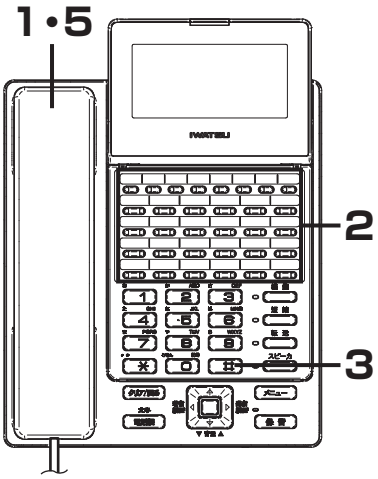
2 「音声案内録音」ボタンを押します。

3 再生するメッセージ番号（01～50）を押します。

4 「2」ボタンを押します。

5 登録されている内容が聞こえます。

6 メッセージの再生終了後、受話器を置きます。



Note

・「音声案内録音」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

●可変メッセージの一括再生方法

1 受話器を取り上げます。

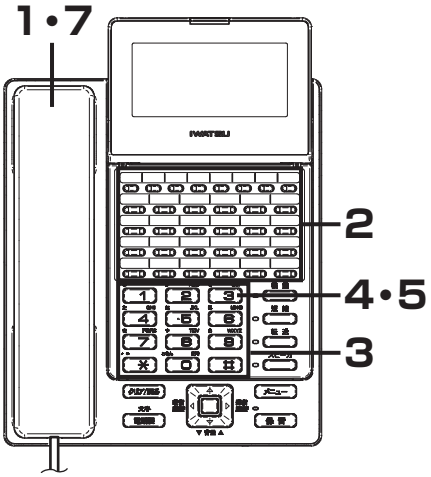
2 「音声案内録音」ボタンを押します。

3 メッセージ番号の入力ガイダンスが流れたら、「#」ボタンを２回押します。

4 登録されている内容が聞こえます。

5 メッセージの再生終了後、受話器を置きます。

可変メッセージの消去



Note

・「音声案内録音」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

●可変メッセージの消去方法

1 受話器を取り上げます。

2 「音声案内録音」ボタンを押します。

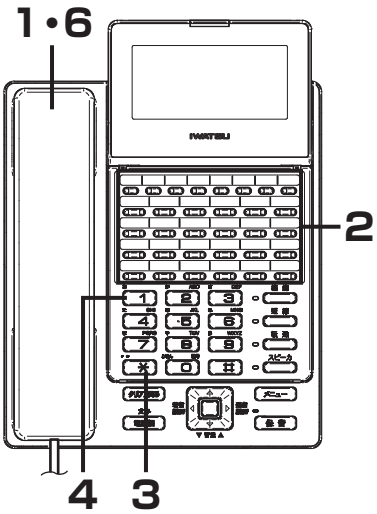
3 消去するメッセージ番号（01～50）を押します。

4 「3」ボタンを押します。

5 確認メッセージが流れたら、「3」ボタンを押します。

6 登録されている内容が消去されます。

7 受話器を置きます。



Note

・「音声案内録音」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

●可変メッセージの一括消去方法

1 受話器を取り上げます。

2 「音声案内録音」ボタンを押します。

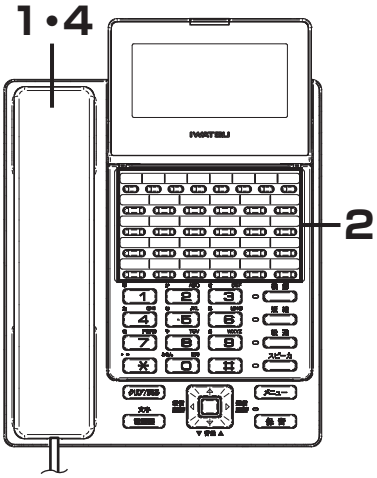
3 メッセージ番号の入力ガイダンスが流れたら、「＊」ボタンを2回押します。

4 確認ガイダンスが流れたら、「1」ボタンを押します。

5 登録されているすべての可変メッセージが消去されます。

6 受話器を置きます。

音声案内



案内サービス

電話機は、次に示す操作によって音声による案内サービスを受けることができます。

1 受話器を取り上げます。

2 「音声案内再生」ボタン（または「機能」＋「4」「5」ボタン）を押します。

3 メッセージが再生されます。

4 メッセージの再生終了後、受話器を置きます。

Note

- 可変メッセージ01番のメッセージが再生されます。
- 「音声案内再生」ボタンはデータ設定により、あらかじめフレキシブルボタンに登録が必要です。

5.音声応答自動振分機能(IVR)編

音声応答自動振分機能（IVR）

オプション

音声応答自動振分機能（IVR）概要

外線着信に対して音声応答自動振分機能（IVR：Interactive Voice Response）（以下、「IVR」と称します）による案内サービスをご利用いただくことができます。
システムが自動応答したあとに、操作ダイヤルをプッシュ信号によりダイヤルすることで、様々な用途の機能をご利用いただけます。
FrespecのIVRは、次の機能を使用することができます。

●自動応答

外線からの着信に自動的に応答します。

●シナリオ実行

次の項目で構成されたシナリオを実行します。
※ 最大50種類のシナリオが使用できます。また､階層（段数）の制限なく自由にシナリオを組み合わせることができるので、様々な用途で本機能をご利用いただけます。

- 音声案内
  音声ガイダンスを再生し、操作を案内します。
- 操作受付
  発信者が操作したダイヤルを受け付け、ダイヤルに設定された機能を実行します。音声ガイダンス再生中に操作を受け付けることもできます。
- 無操作監視
  一定時間ダイヤル操作がなかった場合に設定された機能を実行します。

●機能実行

操作受付／無操作監視で実行できる機能は次のとおりです。

- 内線呼び出し
  内線電話機を呼び出します。内線代表呼び出しや、複数の内線電話機を同時に呼び出すこと（複数台内線呼び出し）もできます。
- 外線転送（短縮発信）
  システム短縮発信機能を利用して、着信を外線に転送することができます。
  ※ 特定の用件の着信を他の営業所に転送する場合などに便利です。
- シナリオ実行
  次のシナリオの実行や、直前に実行したシナリオの再実行を行うことができます。
  ※ シナリオの機能実行から他のシナリオを実行することで、階層による案内を行うことができます。
- 切断
  音声で「終了しました」と案内したあと、外線を切断します。

●受付操作表示

内線呼び出しによる着信時、発信者がダイヤル操作によって選択したシナリオの番号と最後に操作したダイヤルを、電話機のディスプレイで確認できます。
※ ディスプレイに表示されるシナリオ番号と最終操作ダイヤルを、シナリオの内容を示す資料と照らし合わせることで、発信者の用件がわかります。電話応対を簡略化でき、かつ的確な対応を行うことができます。
※ 受付操作表示が行える電話機は、Frespec KTのみです。

●留守録連係

呼び出しを受ける内線電話機が話し中の場合や離席中などで呼び出しに応答できなかった場合に、ボイスメールの留守録に音声で用件を残していただくことができます。

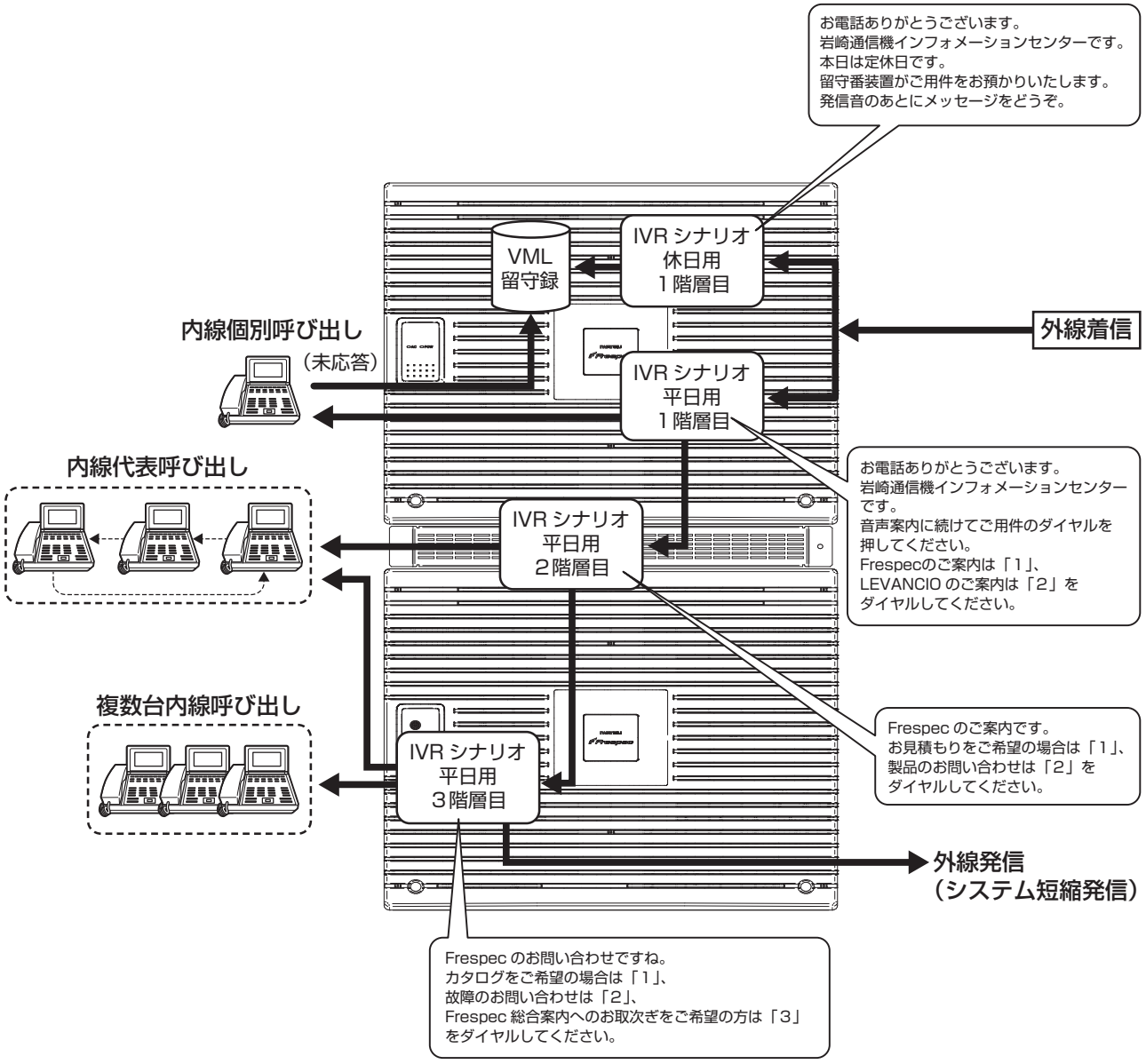
●スケジュール

曜日ごとにIVRを利用する時間帯を登録することで、自動的にIVR機能を開始／停止させることができます。
※ 営業時間などに合わせて時間帯ごとに異なるシナリオを実行させることもできるので、細やかなサービスを提供できます。

●音声ガイダンス登録

音声ガイダンスを録音することができます。（1ガイダンス最大2分）
※ ユーザ様の用途に応じた独自の音声ガイダンスをご利用いただけるので、オリジナルな操作案内を提供することができます。
操作を案内するガイダンスは、ユーザ様に適した可変ガイダンスをあらかじめご準備いただき、ご利用ください。
なお、操作結果をお知らせする固定ガイダンスは用意されています。

IVRの動作例



Note

- IVR機能を使用するためには、IVRチャネルライセンスが必要です。また、可変ガイダンスの録音を行うためにはVML録音時間ライセンス、留守録連携を行うにはVMLチャネルライセンスおよびVML録音時間ライセンスが必要です。各ライセンスについては、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

音声応答自動振分機能（IVR）

オプション

IVRの応答動作例

お客様

外線着信

【１階層目】

お電話ありがとうございます。
岩崎通信機インフォメーションセンターです。
商品の問い合わせについては１を
商品の修理については２を
ダイヤルしてください。

「1」ボタンを押す

「2」ボタンを押す

【2階層目】

○○商品については１を
△△商品については２を
××商品については３を
ダイヤルしてください。

【2階層目】

○○商品の修理については１を
△△商品の修理については２を
××商品の修理については３を
ダイヤルしてください。

「1」ボタンを押す

「1」ボタンを押す

【3階層目】

カタログのご請求については１を
商品の仕様については２を
商品の価格については３を
ダイヤルしてください。

【3階層目】

出張修理をご希望の場合１を
持込み修理をご希望の場合２を
ダイヤルしてください。

「1」ボタンを押す

「2」ボタンを押す

「3」ボタンを押す

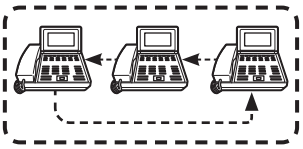
「1」ボタンを押す

「2」ボタンを押す

内線個別呼び出し

複数台内線呼び出し

内線代表呼び出し



外線発信
（短縮発信）

内線個別呼び出し

ボイス
メール

離席時は
留守録

着信に
応答する

着信に
応答する

着信に
応答する

着信に
応答する

在席時は
着信に応答する

たいへんお待たせしました。担当××がお受けいたします。カタログのご請求ですね。

カタログ発送担当へ
内線着信

技術担当へ
内線着信

営業担当へ
内線着信

出張修理受付担当へ
内線着信

持込み修理受付担当へ
内線着信

IVR可変ガイダンス登録

IVR用に次の固定ガイダンスが用意されています。
可変ガイダンスをご利用の場合は、「可変ガイダンスの録音方法」（5-6ページ）に従って、各ガイダンスに対応するガイダンスを録音してください。

●固定ガイダンス一覧

操作結果	固定ガイダンス	可変ガイダンスのメッセージ番号とメッセージの内容
呼出開始	ただいま呼び出しを行っていますので、恐れ入りますがそのままの状態でしばらくお待ちください。	
呼出失敗（不正番号）	おつなぎできませんでした。	
呼出失敗（呼出不可）	おつなぎできませんでした。	
呼出失敗（呼出タイムアウト）	おつなぎできませんでした。	
呼出失敗（リトライアウト）	ただいま大変電話がこみあっています。後ほどおかけ直しください。	
未定義操作	番号が違います。	
サービス提供不可	このサービスは、ご利用になれません。	
強制終了	終了しました。	

Note

- 可変ガイダンスの録音を行うためにはVML録音時間ライセンスが必要です。ライセンスについては、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 可変ガイダンスのメッセージ番号は、可変ガイダンスを録音／再生／消去する際に入力が必要です。お買い求めの販売店にお問い合わせください。

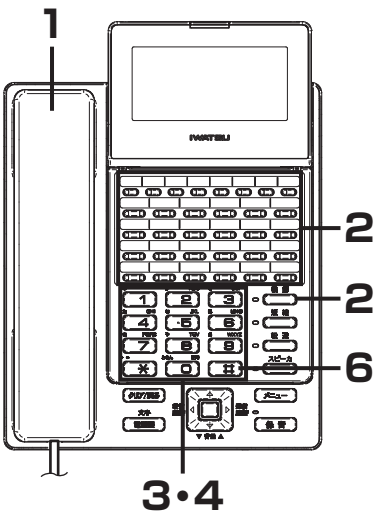
IVR可変ガイダンス登録

可変ガイダンスを登録する

可変ガイダンスの録音／再生／消去ができます。

Note

- 可変ガイダンスの登録（録音／再生／消去）は、簡易中継台および一般ボタン電話機で操作することができます。
- 可変ガイダンスの登録は、複数の電話機で同時に行うことはできません。他の電話機が可変ガイダンスの登録を行っているときに可変ガイダンスの登録操作を行うと、警告音が送出されます。
- 着信に対して可変ガイダンスを送出しているときは、可変ガイダンスの登録を行うことはできません。また、可変ガイダンス登録中にIVRが動作すべき着信を受けた場合、着信に対して可変ガイダンスが送出されませんのでご注意ください。
- 可変ガイダンスの登録は、IVR停止状態のときに行ってください。
- 停電時などシステムがバッテリーで稼動しているときにIVRが動作すべき着信を受けた場合、IVRは動作せずプライムステーションへの着信になります。



●可変ガイダンスの録音方法

1 受話器を取り上げます。

2 「機能」ボタン、「IVRn」ボタンの順に押します。

3 管理者パスワードを押します。
管理者パスワードが登録されていない場合、管理者パスワードの入力は不要です。

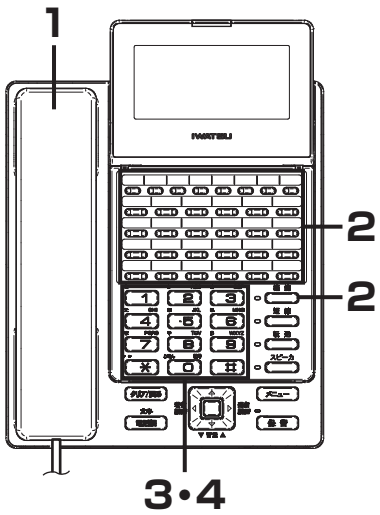
4 登録するメッセージ番号（01～50）を押し、続けて「1」ボタンを押します。

5 録音する案内を120秒以内で話します。

6 「#」ボタンを押します。

Note

- 可変ガイダンスは何度でも吹き替えることができます。
- 「IVRn」ボタンおよび管理者パスワードは、データ設定によりあらかじめ登録が必要です。お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 可変ガイダンスを録音しているときに受話器を置くと、それまでの録音内容は破棄され、録音は終了します。
- 可変ガイダンスを録音しているときに録音上限時間（120秒）に達すると、それまでの録音内容は保存され、録音は終了します。



●可変ガイダンスの確認方法

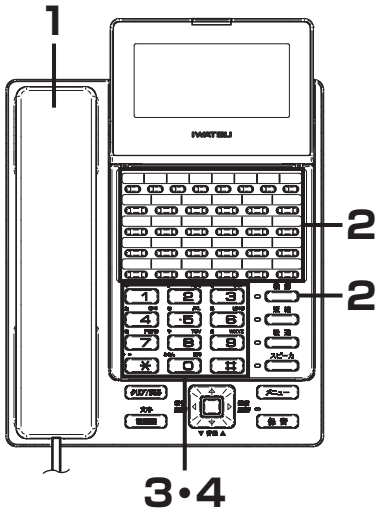
1 受話器を取り上げます。

2 「機能」ボタン、「IVRn」ボタンの順に押します。

3 管理者パスワードを押します。
管理者パスワードが登録されていない場合、管理者パスワードの入力は不要です。

4 登録するメッセージ番号（01～50）を押し、続けて「2」ボタンを押します。

5 録音されている可変ガイダンスを聞くことができます。
可変ガイダンスが録音されていない場合、「録音されていません」と案内されます。



●可変ガイダンスの消去方法

1 受話器を取り上げます。

2 「機能」ボタン、「IVRn」ボタンの順に押します。

3 管理者パスワードを押します。
管理者パスワードが登録されていない場合、管理者パスワードの入力は不要です。

4 登録するメッセージ番号（01～50）を押し、続けて「3」ボタンを2回押します。

5 録音されている可変ガイダンスが消去されます。
可変ガイダンスが録音されていない場合は、「録音されていません」と案内されます。

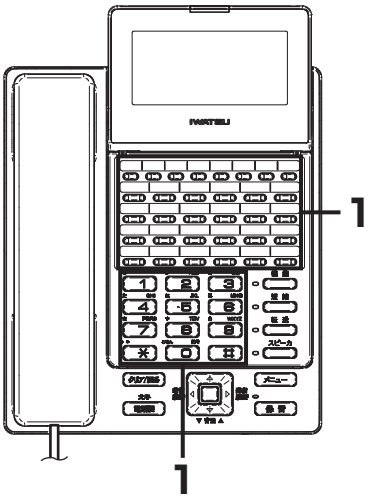
Note

- 「IVRn」ボタンおよび管理者パスワードは、データ設定によりあらかじめ登録が必要です。お買い求めの販売店にお問い合わせください。

IVR機能開始／停止

IVRサービスを開始／停止する

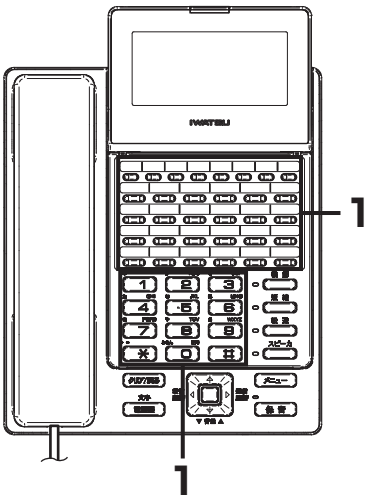
IVRグループごとにIVRサービスの開始／停止を設定できます。



●IVRサービスを開始する

1 「IVRn」ボタンが消灯しているときに受話器を置いた状態で、「IVRn」ボタン、管理者パスワードの順に押します。

「IVRn」ボタンが赤色に点灯し、IVRサービスが開始状態になります。
管理者パスワードが登録されていない場合、管理者パスワードの入力は不要です。



●IVRサービスを停止する

1 「IVRn」ボタンが赤色で点灯しているときに受話器を置いた状態で、「IVRn」ボタン、管理者パスワードの順に押します。

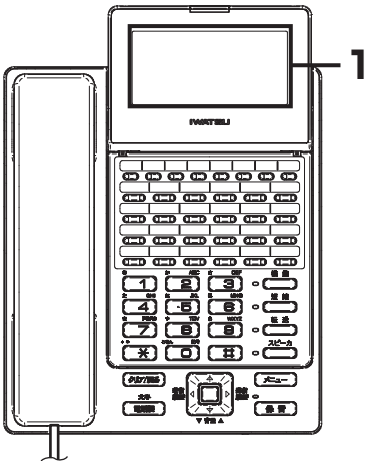
「IVRn」ボタンが消灯し、IVRサービスが停止状態になります。
管理者パスワードが登録されていない場合、管理者パスワードの入力は不要です。

Note

- 「IVRn」ボタンは、データ設定によりあらかじめ登録が必要です。
- IVRサービス動作中は「IVRn」ボタンが赤色で点灯し、IVRサービス停止中は「IVRn」ボタンが消灯します。
- IVR機能の動作スケジュールをデータ設定であらかじめ登録することで、IVRサービスを自動的に開始／停止させることもできます。スケジュールの登録についてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 「IVRn」ボタンの操作でIVRサービスを開始した状態では、スケジュールによるIVRサービスの開始／停止は動作しません。IVRサービスの開始／停止は次の表のとおりに動作します。

IVRサービスの動作状態：「IVRn」ボタンのランプ表示		動作状態の切り替え		
		「IVRn」ボタンを押す	スケジュールの開始時間になる	スケジュールの停止時間になる
停止状態	消灯	手動開始状態	自動開始状態	停止状態継続
自動開始状態（スケジュールで開始した状態）	赤色点滅	停止状態	自動開始状態継続	停止状態
手動開始状態（「IVRn」ボタンで開始した状態）	赤色点灯	停止状態	手動開始状態継続	手動開始状態継続

IVR呼び出し

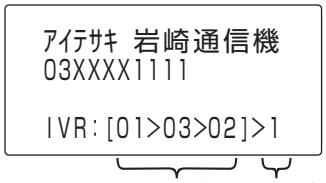


発信者が選択したシナリオを確認する

●受付操作表示

1 内線呼び出しによる着信時、発信者がダイヤル操作によって選択したシナリオの番号と最後に操作したダイヤルを、電話機のディスプレイで確認できます。

ディスプレイに表示されるシナリオの番号と最後に操作したダイヤルを、シナリオの内容を示す資料と照らし合わせることで、発信者の用件がわかります。
電話応対を簡略化でき、かつ的確な対応を行うことができます。
受付操作表示が行える電話機は、Frespec KTのみです。



- シナリオ番号
  発信者が選択したシナリオの番号が表示されます。
  4階層以上のシナリオを経由した場合、最後から3階層分のシナリオの番号が表示されます。
- 最終操作ダイヤル
  発信者が最後のシナリオで操作したダイヤルが表示されます。

MEMO

6.管理者編

保守について

ボイスメール機能、メッセージ機能およびIVR機能は、SDカードを使用しています。
SDカードには書き込み、消去回数による寿命があります。一般的な使用頻度では7年程度を想定しています。
このため、ご使用頻度が多い場合には、早めの交換が必要になる場合があります。
交換および、費用につきましては、お買い求めの販売店または、弊社販売担当にお尋ねください。
なお、交換する際、SDカード内にあるお客様のデータは保存されません。

仕様

■内蔵NW-MCU（M-EX）

項目	仕様
録音媒体	SDカード
同時録音再生チャネル数	2チャネル（最大8チャネル）
最大録音時間	約26時間
録音ボックス数	最大188個
同報ボックス数	最大60個
メッセージ件数	最大999件／1ボックス システム全体　4000件

■ユニット（NW-WGU/VML、NW-WGU/VML-<2>、NW-MBU/VML、NW-MBU/VML-<2>）

項目	仕様
録音媒体	SDカード
同時録音再生チャネル数	2チャネル（最大24チャネル）
最大録音時間	約120時間
録音ボックス数	最大900個
同報ボックス数	最大60個
メッセージ件数	最大999件／1ボックス システム全体　8000件

ご注意

●相手に無断で通話録音することは、プライバシーの侵害にあたる場合があります。通話録音機能は、通話している相手にお知らせしたうえで、ご使用ください。
●録音された内容を第三者が無断で聞くことは、法に触れる可能性があるのでご留意ください
●本製品の故障、誤動作、不具合、または停電などの外部要因によって、通信（通話、録音、通話料金管理、FAX 通信、データ通信、その他のサービスの利用など）の機会を逸脱したために生じた損害、およびこの取扱説明書に記載された内容に従わなかったことに起因する損害、故障につきましては、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
●録音容量の空きがない等の場合、録音できないことがあります。
●通話の音量が小さい場合など、各種録音が途中で終了することがあります。
●外出先への呼び出し機能は、発信できる回線がない等で、呼び出せない場合があります。
●システムが自動メンテナンスをしている間は、再生に時間がかかることがあります。
●システムが輻輳状態である場合に正常に録音、再生ができないことがあります。

アフターサービスについて

●この商品には保証書があります。保証期間はお買い求めの日から1年間です。

保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
なお、次の記載内容についてご確認ください。

- 設置されている電話機の台数が記載されていること
- お買い求めの日が記載されていること
- お客様のご住所とお名前が記載されていること
- 販売店の住所と名前が記載されていること

●保証期間はお買い求めの日から1年間です。

なお保証期間中でも有料になる場合がありますので、保証書をよくお読みください。

●アフターサービスはお買い求めの販売店、もしくは工事店が行います。

万一の故障の修理、移動、増設、移設はすべてお買い求めの販売店、もしくは工事店にご依頼ください。

●保証期間経過後の修理はお買い求めの販売店、もしくは工事店にご依頼ください。

- **補修用部品の保有期間について**
  本商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、最低7年間保有しています。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い求めの販売店、もしくは工事店にお問い合わせください。
- **電子情報の消去について**
  お客様または第三者等が本商品のお取り扱いを誤ったとき、本商品のメモリなどが静電気ノイズの影響を受けたとき、また故障修理などのときに、まれに記憶内容が変化および消失することがあります。
  重要な内容は必ず控えを取っておいてください。記憶内容が変化および消失したことによる損害については、弊社に重大な過失、故意がない限り、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

アフターサービスについてご不明な点はお買い求めの販売店、もしくは工事店にお問い合わせください。

索引

＜アルファベット＞

IVR ……5-2
IVR可変ガイダンス確認方法……5-7
IVR可変ガイダンス消去方法……5-7
IVR可変ガイダンス登録……5-5、5-6
IVR可変ガイダンス録音方法……5-6
IVRサービス……5-8
SDカード……6-2、6-3

＜あ行＞

アクセス番号 ……3-28
宛先Eメールアドレス設定 ……3-2、3-13
アフターサービス……6-5
暗証番号……3-3、3-5、3-22、3-23、3-25、3-30、3-32、3-33、3-35、3-37、3-38、3-40、3-41、3-42、3-43、3-44、3-45、3-51、3-54
受付操作表示 ……5-9
エラー……3-43、3-45
応答専用メッセージ……3-28、3-36
応答メッセージ……3-5、3-26、3-28、3-36、3-37、3-38、3-39、3-41、3-43、3-44
音声案内……4-2
音声応答自動振分機能（IVR）……5-2
音声ガイダンス内容……3-36
音声ファイルを再生……3-58

＜か行＞

開始動作……3-31
外出先……3-32、3-40、3-41、3-42、3-43、3-44、3-45、6-4
外線アクセス番号……3-7
外線着信時 ……3-26、3-30
外線通話 ……3-46、3-48
ガイダンス …3-26、3-30、3-32、3-33、3-34、3-37、3-38、3-40、3-41、3-42、3-43、3-44、3-45、3-51、3-52、3-53、3-54
確認音……3-28
キーパターン ……3-4
記憶内容……6-5
記載内容……6-5
共通応答メッセージ……3-36、3-39
グループ留守番電話……3-35、3-53
グループ留守番電話機……3-39
グループ留守番電話機能……3-44、3-45
グループ留守番録音……3-26、3-27
個人用ボックス……2-2、2-3
個別ボックス ……3-2、3-3
個別留守番電話……3-35、3-53
個別留守番録音……2-2、3-28、3-29、3-30

＜さ行＞

再生時の暗証番号……3-35、3-54
再生する ……2-2、3-27、3-30、3-33、3-35、3-40、3-42、3-47、3-51、3-54
再生パスワード……3-3、3-22、3-30、3-32、3-33、3-35、3-40、3-41、3-42、3-51、3-54
再生パスワード変更……3-2、3-3、3-22
最大録音時間 ……6-3
指定ボックス ……3-26、3-28、3-55
自動消去対象条件……3-2、3-11
自動消去動作 ……3-2、3-10
自ボックス ……2-2、2-3、3-48
消去する ……3-34、3-38、3-52
上下ボタン ……1-3
初期値……3-3、3-24、3-34、3-53
所属ボックス ……3-3、3-25
スケジュール特定日……3-18
スピーカ……3-31
スライド着信 ……3-30、3-40、3-43、3-45
設定完了画面 ……3-21、3-22、3-23
設定する ……3-7、3-8、3-9、3-10、3-11、3-12、3-13、3-14、3-18
設定パスワード……3-23
設定パスワード変更……3-2、3-3、3-23
全件消去 ……3-34、3-52
選択する ……3-4、3-6、3-39
操作一覧 ……3-33、3-51
操作ガイダンス……3-33、3-51
即時転送モード……2-3

＜た行＞

ダイヤルイン着信……3-27
多機能電話機における設定例 ……2-2
単独電話機 ……3-51
通話録音 ……2-2、2-3、3-46、3-47、3-48、3-49、3-50、3-51、3-52、3-53、3-54
通話録音終了時……3-47、3-49
通話録音内容再生中……3-51
定刻発報時刻 ……3-2、3-9
ディスプレイ表示……2-3
伝言センター ……3-32、3-41
伝言録音 ……2-2、2-3、3-45、3-55
伝言録音機能 ……3-55
転送先……3-35、3-53
転送モード ……3-28
電話帳……3-33、3-51
同時録音再生チャネル数……6-3
同報ボックス ……2-2、3-3、3-24、3-55
同報ボックス数……6-3
同報録音 ……3-55
特定日……3-3
取次再生 ……3-42

＜な行＞

内線電話機 …… 3-42
入力エラー ……3-32、3-37、3-38

＜は行＞

パスワード …… 3-2
パスワード入力画面…… 3-5、3-24
発信者番号 ……3-33、3-51
発報先ダイヤル…… 3-2、3-7
発報時刻 …… 3-9
発報タイミング…… 3-2、3-8
表示一覧 …… 2-3
不在転送 ……2-2、2-3、3-28、3-29
フレキシブルボタン…… 1-3、2-2、2-3
変更する ……3-22、3-23、3-24、3-50
ボイスメールアクセス番号 …… 3-51
ボイスメール設定…… 3-4、3-24
保存先…… 3-50
保存する ……3-34、3-53
ボックス使用者……3-35、3-54
ボックス番号 ….3-2、3-3、3-40、3-41、3-43、3-44、3-45
ボックス番号入力画面……3-4、3-24、3-25

＜ま行＞

未応答転送モード…… 2-3
メインメニュー画面…… 3-4、3-24
メール送信動作…… 3-2、3-12
メッセージ件数…… 6-3
メッセージ自動消去設定……3-2、3-10、3-11
メッセージ自動消去動作 …… 3-10
メッセージ番号……3-37、3-38、3-43
メッセージボックス……3-46、3-48
メッセージランプ…… 2-2
メッセージ録音……3-36、3-55
「メニュー」ボタン操作 …… 3-2

＜や行＞

呼び出し …… 3-32
呼出先…… 3-7

＜ら行＞

リモート …… 3-40
リモート操作ガイダンス……3-30、3-43
リモート伝言録音…… 3-45
留守解除 …… 3-26
留守番機能 …… 2-3、3-26
留守番グループ……3-26、3-27
留守番設定画面…… 3-5
留守番電話 …… 3-2、3-26
留守番電話グループ…… 3-39
留守番録音 …… 2-2
留守録応答メッセージ…… 3-2、3-4
留守録開始音 …… 3-31
留守録開始方法…… 3-2、3-6
留守録自動発報先ダイヤル …… 3-7
留守録自動発報設定…… 3-2、3-7、3-8、3-9
留守録自動発報設定画面 …… 3-7、3-8、3-9
留守録自動発報タイミング …… 3-8
留守録モニタ …… 2-2、2-3、3-31
留守録モニタ開始方法…… 3-6
留守録優先ボックス…… 3-28
録音お知らせメール…… 3-2、3-56
録音お知らせメールを受信 …… 3-57
録音お知らせメールを送信 …… 3-56
録音開始音 ……3-46、3-47、3-49
録音可能時間 ……3-28、3-47、3-49
録音件数……3-26、3-47、3-49、3-51
録音先ボックス……3-30、3-43、3-46、3-47、3-48、3-49
録音時間 …… 3-57
録音する……3-37、3-45、3-46、3-48、3-55
録音内容 ……3-28、3-31
録音内容再生 ……3-33、3-40、3-42
録音媒体 …… 6-3
録音ボックス数…… 6-3

＜わ行＞

話中・未応答転送モード …… 2-3

MEMO

このたびは Frespec をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。　ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後も本商品のそばなど、いつもお手元に置いてお使いください。

ご不明の点がございましたら、岩崎通信機お客様相談センターへお気軽にご相談ください。

お客様相談センター
受付時間　平日 9:00～17:00
（12:00～13:00を除く）

0120-186-102
携帯電話/PHSからもご利用いただけます。

お客様メモ

お買い求めになった年月日、店名等をご記入ください。
修理を依頼される時やお問い合わせの時に大変便利です。

設置年月日	年　　月　　日
設置店名 住所 電話番号	

TML219331
2022.05

岩崎通信機株式会社